

# 国文学研究資料館蔵マイクロ資料による私家集奥書集成(一)

## 奈良帝(藤原興風)

久保木 秀夫  
野本 瑠美

私家集は、古典歌人一人ひとりの、時に一集團の詠作や和歌活動を具体的に伝える作品として、また勅撰集や私撰集、類題集の撰集源として、さらに彼らが生きた時代に関する歴史的・文化的な事象を窺わせる資料として、さまざまな時代のさまざまな人々によって読まれ、求められ、次へと

伝えられてきた。各作品の各伝本の奥書類からは、その多種多様な享受・伝来の様相の一端を垣間見ることができ、中に皇族・貴族・武家・宗教者・国学者等々の名が頻繁に見出されたり、書誌学・文献学的に貴重な知見が得られたりするなど、研究情報として有益である。しかしそれらの奥書類は、『新編国歌大観』『新編私家集大成』などの底本・対校本に採用で

もされない限り、なかなか一般には目に触れにくいのが実情であろう。そこで国文学研究資料館蔵のマイクロ資料(及び同館蔵の原本資料・複製本・影印本)から知られる限りのそれらについて、ここに一括翻刻することとした。ただしもちろん私家集の伝本は、ひとまず中世までで区切ったとしても、総体として膨大な量にのぼるため、とても本号だけでは収ま

りきらない。これからしばらく連載していくこととなろう。連載終了時には各種索引も付す予定である。

なお今回は、奥書類の調査・整理・翻刻を野本が担当し、企画・点検、及び序文と凡例の執筆を久保木が担当した。両名の力量不足による過誤も多かろうかと思う。ご批評を乞う次第である。

【凡例】

- 一、国文学研究資料館蔵マイクロ資料・複製本・影印本・原本を対象した。
- 一、対象歌人は「私家集伝本書目」の順番を基準とし「新編私家集大成」を参照しながら掲出した。
- 一、対象歌人名を大見出しとし、上に本稿における通し番号を付し、下の括弧内に「私家集伝本書目」(「書目」と略)・「新編私家集大成」(「大成」と略)における通し番号を示した。
- 一、対象資料を(奥書・刊記等アリ)と(奥書・刊記等ナシ)に二分した上で、それぞれマイクロ資料をマイクロ番号順、複製本・影印本を書名順、原本を請求記号順に掲げた。
- 一、対象資料の所蔵先を小見出しとし、上に括弧付き通し番号を付し、下の括弧内に所蔵先の請求番号を示した。
- 一、写本については、奥書・刊記等の有無に関わらず全て取り上げた。版本については、校合書き入れのある本は全て、有刊記本は任意の一本を取り上げ、無刊記本は省略した。
- 一、書誌情報は、マイクロ資料は「マイクロ」とした上で、マイクロ番号／紙焼写真番号／写刊の別・数量／外題／内題／叢書情報／合写・合刻状況の順に、紙焼写真は「紙焼写真」とした上で、紙焼写真番号／写刊の別・数量／外題／内題／合写・合刻状況の順に、影印本・複製本は「影印」「複製」とした上で、書名(年月日、出版社)／写刊の別・数量／外題／内題／合写・合刻状況の順に、原本は「原本」とした上で、写刊の別・数量／外題／内題／合写・合刻状況の順にそれぞれ

れ掲げた。

- 一、翻刻は「翻刻」とした上で、種別ごとにアルファベットを付し、括弧内に記載位置を示して掲げた。
- 一、「翻刻」では奥書・識語・刊記・鑑定資料等に加えて、巻末に校合された異本歌をもなるべく取り上げるようにした。
- 一、対象とする伝本が三十六人集等の叢書に収められており、三十六人集全体に関わる奥書・刊記等が存する場合、それらは一括して「2 柿本人麻呂」に掲げた。ただし各伝本に個別に関わる情報については抜粋して再掲した。
- 一、字体は可能な限り原本どおりとした。ただし文字の大小・字配りは必ずしも忠実ではない。
- 一、改行位置は基本的には原本どおりとした。ただし紙面構成の都合上、適宜追い込みともした。追い込みの場合は改行位置に「／」を入れた。
- 一、欠損文字は□、推定可能文字は〔窮恒〕、判読不能文字は「■」のよう示した。
- 一、ミセケチ記号は「ヒ」で示した。
- 一、「備考」には人名・事項に関するごく簡潔な考証、及び影印・複製本の刊行情報等を掲げた。

1 奈良帝「書目・大成1-1」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 宮内庁書陵部(五〇一―八四五)

【マイクロ】二〇―二〇六―五―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「代々御集」／内題「奈良御門御集」／仁和御集・亭子院御集・延喜御集・朱雀院御集・村上御集・冷泉院御集・円融院御集と合

【翻刻】

A (巻末)

已上御製文武聖武相交相違也但可任本

已下二首可入女八の次

桜の花のちるをおらんとて

殿公も花をおしくおもほすをいと、もふるにちる桜かな

とのもりもおほしめしける

ひとつきをみそかによせはとのもりにそよるあまりはかりにまからん

【備考】

A 「女八」…補入歌「よめのみこたち、かたちよしときこしめしてよませ給ける御中／女八と女又またのみやとくらふれはいつれかかほのひかりまさされる」を指す。

〈奥書・刊記等ナシ〉

(2) 宮内庁書陵部(五〇六―七五)

【マイクロ】二〇―三二―一三―一／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「奈良御集」仁和御集／内題「奈良御集」／仁和御集・寛平御集と合

(3) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十二卷 平安私家集 九」所収(二〇〇二年四月、朝日新聞社)／写一帖／外題ナシ／内題「奈良御集」／仁和御集・寛平御集と合

2 柿本人麻呂〔書目2・大成11254・新編増補〕

〔奥書・刊記等アリ〕

(1) 鶴見大学図書館

〔マイクロ〕一七一一三一／紙焼写真C二五七一／写一帖／外題ナシ

／内題「柿本集上(下)」／伊勢集・貫之集と合

〔翻刻〕

A (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣<sup>再</sup>

〔備考〕

A 「藤原朝臣」：藤原為家(建久九年1198〜建治元年1275)か。

(2) 宮内庁書陵部(五〇一―二九五)

〔マイクロ〕二〇一〇一〇一ニ／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「柿本人磨

集」／内題「柿本人磨集上(中・下)」〔目録題〕

〔翻刻〕

A (上巻頭)

写本云

寛元三年八月五日以或

所御本書了 此書一

本書也

哥都合七百六十首

尤可秘く

B (下巻末)

本云

建長五年五月八日以綴前槐

御本書写校合了

可秘々々 日孝

〔備考〕

B 「綴前槐」：衣笠家良。建久三年1192〜文永元年1264。仁治二年1241まで内

大臣。

「日孝」：生没年未詳。家良や連性・真觀周辺の人物か。

(3) 宮内庁書陵部(B六一七二四)

〔マイクロ〕二〇一四一〇一八／紙焼写真ナシ／写三軸／外題「人丸家集

上(中・下)」／内題「柿本人丸家集上(中・下)」

〔翻刻〕

A (上巻末)

建久三年

B (中巻末)

建久三年

C (下巻末)

建久三年

(4) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一—三〇— / 紙焼写真C二八七 / 写一帖 / 外題「歌仙家集」 / 内題「柿本集上(下)」 / 「歌仙家集」のうち / 躬恒集と

合

【翻刻】

A (人麻呂集下巻末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣<sup>現在</sup>

【備考】

A 「藤原朝臣」 ↓ 2 柿本人麻呂(1) 参照

(5) 長野市旧真田家本(二〇)

【マイクロ】二八—二二— / 紙焼写真C九七二 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「柿本集上(下)」 / 「首題」・「柿本集」 / 「扉題」 / 三十六人集のうち

【翻刻】

【鑑定】

A (折紙)

這三十六人之家集全部三十六冊

遂拜覽申候近衛殿信尋公御

真蹟無疑者也取可謂希有

之珍寶依御所望爲後證染

禿毫而已

百五拾貫可仕候

寛文九曆

古筆了任(琴山)

孟秋上旬

守村(花押)

【備考】

A 「近衛殿信尋公」 : 慶長四年 1599 ~ 慶安二年 1649。

「古筆了任」 : 寛永六年 1629 ~ 延宝二年 1674。古筆別家二世。一村男。守

村、通称勘兵衛。

(6) 神宮文庫(三 / 二〇四)

【マイクロ】三四—一三四— / 紙焼写真C四六四九 / 写一冊 / 外題「柿本人丸」 / 内題「柿本集上(下)」 / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (下巻末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日

藤原朝臣<sup>現在</sup>

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納  
皇太神宮林崎文庫以期不朽  
京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「藤原朝臣」↓2柿本人麻呂(1)参照

B 「村井古巖敬義」∴村井敬義。寛保元年1741〜天明六年1786。号古巖。

(7)神宮文庫(三〇一四六〇)

【マイクロ】三四―一五八―二／紙焼写真C四八四七／写一冊／外題「和歌柿本集 完」／内題「柿本集上(柿本集下)」

【翻刻】

A (下巻末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣在

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納  
皇太神宮林崎文庫以期不朽  
京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「藤原朝臣」↓2柿本人麻呂(1)参照

B 「村井古巖敬義」↓2柿本人麻呂(6)参照

(8)名古屋市蓬左文庫(二〇六一三七)

【マイクロ】四八―一〇―三―一／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「人麿集」／内題「柿本集」／三十六人集のうち

【翻刻】

【極書】

A (巻末)

這家集卅六冊之外題者

竹中殿季有御筆(琴山)

【備考】

A 「竹中殿季有」∴四辻季有。生没年未詳。従四位下彈正少弼。四辻公理男。公理は慶長十五年1610〜延宝五年1677。

(9)陽明文庫(近二二二二一)

【マイクロ】五五―七―五―二―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「柿本人麿集」／内題「柿本集上(下)」【首題】・「卅六人家集」【筆者目録】／「卅六人家集」のうち

【翻刻】

A (筆者目録)

塗故フンニテ書付有之也

卅六人家集目錄

人丸 式部卿宮實立

貫之 高倉大納言本茂

躬恒 廣橋大納言總光

伊勢 日野大納言實勝

家持 中院內大臣通行

赤人 庭田中納言長定

業平 富小路三位秀光

遍昭 阿野大納言實顯

素性 秀賢朝臣

友則 勸修寺儀同光直

猿丸 前大僧正尊勢

小町 水無瀬中納言氏成

兼輔 山科宰相長賴

朝忠 三級

敦忠 西園寺右大臣實盛

高光 近衛閔白信尹

公忠 園宰相實任

忠峯 青蓮院宮實純

斎宮女御 基久朝臣

頼基 烏丸儀同光行

敏行 中御門大納言實通

重之 三条右大臣實隆

宗于 照高院宮實立

信明 日野前大納言實行

清正 曼殊院宮長忠

順 飛鳥井大納言實出

興風 西洞院前宰相時成

元輔 花山院左大臣定隆

是則 廣橋內大臣實務

元真 隆致朝臣

小大君 冷泉大納言實清

仲文 四辻大納言實成

能宣 西洞院宰相時成

忠見 菊亭大納言實季

兼盛 冷泉三位實賴

中務 鷹司閔白實尚

【備考】同内容の筆者目録二点あり。

A 「式部卿宮智仁親王」…天正七年 1579 ～寛永六年 1629。

「高倉大納言永慶」…天正十九年 1591 ～寛文三年 1663。寛永十九年 1642 権大

納言。

「廣橋大納言總光」…天正八年 1580 ～寛永六年 1629。元和四年 1618 ～寛永六

年 1629 権大納言。

「日野大納言資勝」…天正五年 1577 ～寛永十六年 1639。慶長十九年 1614 ～寛

永十六年 1639 權大納言。

「中院内大臣通村」…天正十五年 1587 承応二年 1653。正保四年 1647 正保五年 1648 内大臣。

「庭田中納言重定」…天正五年 1577 元和六年 1620。元和元年 1615 元和二年 1616 權中納言。

「富小路三位秀直」…永祿七年 1564 元和七年 1621。慶長十八年 1613 元和七年 1621 非參議從三位。

「阿野大納言實頭」…天正九年 1581 正保二年 1645。寬永十年 1633 寬永十一年 1634 權大納言。

「秀賢朝臣」…舟橋秀賢。天正三年 1575 慶長十九年 1614。慶長九年 1604 從四位下式部少輔。

「勤修寺儀同光豊」…天正三年 1575 慶長十七年 1612。元和四年 1618 贈内大臣。

「前大僧正尊勢」…生年未詳 元和二年 1616。近衛前久男。

「水無瀬中納言氏成」…元龜二年 1571 寬永二十一年 1644。寬永三年 1626 寬永四年 1627 權中納言。

「山科宰相言緒」…天正五年 1577 元和六年 1620。元和五年 1619 元和六年 1620 參議。

「三級」…毘沙門堂公嚴。生没年未詳。中院通勝弟。慶長七年 1620 二月十日以前還俗、三級と名乗る（慶長日件録）。

「西園寺右大臣實益」…永祿三年 1560 寬永九年 1632。元和六年 1620 元和七年 1621 右大臣。

「近衛関白信尹」…慶長四年 1599 慶安二年 1649。元和九年 1623 寬永六年 1629 関白。

「園宰相基任」…天正元年 1573 慶長十八年 1613。慶長十七年 1612 慶長十八年 1613 參議。

「青蓮院宮尊純」…天正十九年 1591 承応二年 1653。

「基久朝臣」…持明院基久。天正二年 1574 慶長二十年 1615。慶長十八年 1613 從四位上左中將。

「烏丸儀同光宣」…天文十八年 1549 慶長十六年 1611。慶長十六年 1611 准大臣。

「中御門大納言資胤」…永祿十二年 1569 寬永三年 1626。慶長十七年 1612 寬永三年 1626 權大納言。

「三條右大臣實條」…天正三年 1575 寬永十七年 1640。寬永十七年 1640 右大臣。

「照高院宮興意」…天承四年 1576 元和六年 1620。

「日野前大納言輝資」…弘治元年 1555 元和九年 1623。天正十五年 1587 慶長八年 1603 權大納言。

「曼殊院宮良恕」…天正二年 1574 寬永二十年 1643。

「飛鳥井大納言雅庸」…永祿十二年 1569 元和元年 1615。元和元年 1615 權大納言。

「西洞院前宰相時慶」…天文二十一年 1552 寬永十六年 1639。慶長五年 1600 寬永元年 1624 參議。

「花山院左大臣定熙」…永祿元年 1558 寬永十一年 1634。寬永九年 1632 左大臣。

臣。

「廣橋内大臣兼勝」…永祿元年1558～元和八年1622。元和四年1618～元和五年1619内大臣。

「隆致朝臣」…櫛笥隆致。天正十年1582～慶長十八年1613。慶長十八年1613從四位上。寛文七年1667贈從一位左大臣。

「冷泉大納言為滿」…永祿二年1559～元和五年1619。元和四年1618～元和五年1619。寛大納言。

「四辻大納言季繼」…天正五年1577～寛永十六年1639。寛永三年1626～寛永十六年1639。寛大納言。

「西洞院宰相時直」…天正十二年1584～寛永十三年1636。寛永三年1626～寛永十三年1636參議。

「菊亭大納言経季」…文祿三年1594～慶安五年1652。元和五年1619～寛永四年1627。寛大納言、寛永十五年1638還任、寛永十六年1639辭。

「冷泉三位為頼」…天正二十年1592～寛永四年1627。寛永四年1627叙三位。

「鷹司閔白信尚」…天正十八年1590～元和七年1621。慶長十七年1612～慶長二十年1615閔白。

(10) 東興義塾高等学校

「マイクロ」六七―一―一―紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題「人丸集 一」／内題「柿本集上(下)」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (下巻末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣有在

【備考】

A 「藤原朝臣」↓2 柿本人麻呂(1)参照

(11) 今治市河野美術館(二二二―八四〇)

「マイクロ」七三―三五八―一―紙焼写真C九一五八／写一冊／外題ナシ  
／内題「柿本人丸集」

【翻刻】

【鑑定】

A (紙片)

歌書 玄陳筆

【備考】

A 「玄陳」…里村玄陳。天正十九年1591～寛文五年1665。紹巴孫。

(12) 今治市河野美術館(三四七―八四二)

「マイクロ」七三―三五八―二―一―紙焼写真C九一五九／写一冊／外題「柿本朝臣 歌集 全」／内題「柿本朝臣人麿 七十九首」／赤人集と合  
山部宿禰

【翻刻】

A (赤人集巻末)

飯田武郷 抄録

岩本尚賢 写之

【備考】

A 「飯田武郷」…文政十年1827～明治三十三年1900。信濃高島藩士。国学者。

諏訪神社・浅間神社等の宮司を務める。明治十四年1881東京帝国大学教授。

「岩本尚賢」…天保六年1835～明治四十年1907。諏訪神社宮司。

(13) 熊本大学附属図書館北岡文庫(三三三号赤二二二)

【マイクロ】二二四―一四一五―七／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「哥仙家集」／内題「柿本集上(下)」／「哥仙家集」のうち／躬恒集と合

【翻刻】

A (人麻呂集下卷末)

書寫本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣

刊在

【備考】

A 「藤原朝臣」↓2柿本人麻呂(1)参照

(14) 京都女子大学図書館吉沢文庫(YW九一一・二〇八―K―二)

【マイクロ】二二四―一五八―三―一／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙

家集八九 一」／内題「柿本集上(下)」／「哥仙家集」のうち／躬恒集と

合

【翻刻】

A (見返し書入)

付札

袖中十六廿六子 嵯峨の、行幸に躬恒哥云此河をは何とか云と、はせ

給ければ いさしらすみつねはこ、にありす川君かみゆきにけふ

こそみれ は みつね集印本異本とも見えすいか、

B (同)

富士谷成章校本

刊本二卷上六十四首下二百三十五首合二百九十九首内題上首 四百九十九首也

比古本廿四首多

古本一卷六百四十五首内題上首 六百四十五首也比刊本三百七十三首多

C (一丁オモテ書入)

宜本上六十三首 下五十二首合二百九十八首次第与刊本大同五ヶ所相違下二標す比刊本

三首少二首多内一首見補／

D (人麻呂集下卷末)

六百四六

古大尾

但歌数ハ六百四十五首也偶次第ヲ誤テ三百三十三ヲ失スル故ニ如斯

E (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣實任

F (躬恒集卷末書入)

文化四年五月廿三日校合畢

村田並〔花押〕

G (二冊目業平集卷末書入)

文化四年六月十八日校合畢

村田並〔花押〕

H (三冊目公忠集卷末書入)

文化四年七月二日一校畢

村田并〔花押〕

I (四冊目清正集卷末書入)

文化四年七月六日一校畢

村田並〔花押〕

J (五冊目小大君集卷末書入)

寛政七年九月七日始五卷まで校合十三日終る  
藤原のり之

文化四年七月廿二日校合畢

村田並〔花押〕

K (六冊目兼輔集卷末書入)

文化四年七月二日一校畢

村田并〔花押〕

L (七冊目貫之集上卷末書入)

文化四年七月廿四日校合畢

村田并〔花押〕

M (八冊目貫之集下卷末書入)

文化四年七月廿四日校合畢 並〔花押〕

N (九冊目伊勢集卷末書入)

文化四年十月廿八日書入畢 村田並〔花押〕

O (十冊目順集卷末書入)

文化五年壬戌六月朔日夜一校畢〔花押〕

P (十一冊目朝忠集卷末書入)

文化五年七月六日書入畢 村田并〔花押〕

Q (十二冊目頼基集卷末書入)

文化五年七月廿三日校合畢〔花押〕

R (十三冊目信明集卷末書入)

文化五年七月廿三日校畢〔花押〕

S (十四冊目仲文集卷末書入)

文化五年文月八日書入畢〔花押〕

T (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

U (十五冊目中務集卷末書入)

文化五年七月廿五日全部校合畢〔花押〕

〔備考〕

B 「富士谷成章」：元文三年1738～安永八年1779。

E 「藤原朝臣」↓2 柿本人麻呂(1)参照

F、S、U「村田並《花押》」：村田春門。明和二年1765〜天保七年1836。初名並樹、後に春門と改める。

J「藤原のり之」：村山素行か。安永二年1773〜天保六年1835。藤原氏、名は徳之。寛政十年1798剃髪して素行と称す。

(15) 大和文華館(三―三九二四)

【マイクロ】二五七―一五二―一四／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「哥仙集」／内題「柿本集」／「哥仙集」のうち／元輔集・順集・齋宮女御集と合

【翻刻】

A (人麻呂集卷末)

萬治二とせ小春後の八日豊の前中津河  
にして書之四人の哥あり

詠答宗連坊《花押》

【備考】

A「詠答宗連坊」：木下俊忠。天正十一年1583〜寛文五年1665。長嘯子弟。号宗連。了源院詠答宗連居士。

(16) ノートルダム清心女子大学附属図書館(B七二/一五一一)

【マイクロ】三三三―一六八―一一／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「歌仙家集」／内題「柿本集上(下)」／「歌仙歌集」のうち／躬恒集と合

【翻刻】

A (表紙右側書入)

富士谷成章校合本 伴直方自筆校本

B (見返し書入)

人麿家集 河社発行 人丸集はひたふる信しかたきもの也云云  
えき 延喜

こちかせ かのこまたら つ、ら枝 よせはりそめの袖

さきにもた、ぬくいゆ ち、こくさ かたかけのふね くれのおも

タクハのぞも  
かけ

はねうちほふき 一日ふつか

哥仙家集抜書注一巻 奥書云正保三年七月七日云々

C (同)

富士谷成章校本

D (同)

刊本二卷上六十四首下二百三十五首合二百九十九首内撰五首  
外撰九十四首也 此古本廿四首多／

E (一丁オモテ書入)

古本一卷六百四十五首内撰五首  
外撰六百四十首也 比古本三百七十三首多

F (同)

宜本去上三冊合二百九十八首次第与刊本／大同五ヶ所相違下ニ／標ス比刊三首少／二首多内一首見／補

G (人麻呂集卷末歌注記)

六百四六

古大尾

但歌数ハ六百四十五首也今偶次第ヲ誤テ三百二十三ヲ失スル故ニ如

斯ノ

H (人麻呂集卷末)

書寫本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣阿在

I (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

【備考】

A 「富士谷成章」 ↓ 2 柿本人麻呂(14)参照

「伴直方」：寛政二年 1790 ~ 天保十三年 1842。

B 「長頭丸」：松永貞徳。元龜二年 1571 ~ 承応二年 1653。

H 「藤原朝臣」 ↓ 2 柿本人麻呂(1)参照

(17) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C- / 三四一 ~ 二)

【マイクロ】三三三二七一一一 / 紙焼写真ナシ / 写二冊 / 外題「人丸

集 一上(二下) / 内題「人丸家集」(扉題)・「本願寺本三十六家集」

【目録題】 / 「本願寺本三十六家集」のうち

【翻刻】

A (人丸集巻頭)

本願寺本三十六家集

貫之

上下二冊上七十四枚  
下八十六枚

内白五枚

重色紙

躬恒

八十四枚

内白六枚

〃

家持

四十四枚

内白三枚

〃

遍昭

十八枚

内白三枚

〃

素性

十八枚

内白一枚

重色紙

友則

十四枚

内白一枚

〃

猿丸

十六枚

内白一枚

〃

兼輔

廿二枚

内白三枚

〃

朝忠

十四枚

内白一枚

〃

敦忠

廿八枚

内白一枚

〃

高光

二十枚

内白二枚

〃

公忠

十二枚

内白十二枚

〃

忠岑

卅六枚

内白一枚

続、

斎宮

廿四枚

内白二枚

〃

頼基

十二枚

内白一枚

〃

敏行

十枚

内白一枚

〃

重之

六十八枚

内白三枚

続、

信明

十八枚

内白二枚

〃

清正

二十枚

内白二枚

〃

順

六十三枚 内白四枚 続、

元輔

四十四枚 内白三枚 々

是則

十四枚 内白二枚 ○

元真

九十枚 内白四枚 重、

小大君

廿四枚 内白一枚 ○

仲文

四十八枚 内白一枚 ○

能宣

上下二冊上 五十五枚 下 七十五枚 内白三枚 続、

忠見

五十枚 内白二枚 重、

兼盛

三十四枚 内白四枚 続、

中務

四十四枚 内白三枚 ○

以上紙数千百八十三枚 白紙七十八枚 墨付千五百枚

人丸伏見守

上下二冊上 十六枚 下 四十六枚 白四枚 続、

業平

廿六枚 白五枚 々

小町

五十八枚 白四枚 々

以上紙数百四十枚 白紙十七枚 墨付百廿三枚

赤人大

伊勢

宗子

興風

右本ハイツレモ大和綴ニシテ糊ニテ綴リタリ糸ヲ用キシモノナシ

本ノ豎五寸五分横四寸一分表紙ハ切表紙ナレトモ皆ヤツレタリ

B (同)

後奈良院女房奉書

この三十六人のいゝのしうほんくわん寺法印さうしなと  
すきのよしきこしめしをよはれ候ま、れうしなともめつらし  
く候ま、くるしからすはつかはされたくおほしめし候いか、  
候はんするやらん又いつそや申され候つる極くわんの事ら  
い月二日まへ候申さたも候は、しかるへくおほしめし候  
いまたとしもゆき候はぬなど、のしんさくはへい人の事にて候  
はんする一かとにこの月中に御申さた候てめてたく申され候  
はんするよしなく心えて申され候このよし申され候て御ひ  
ろう候へく候かしく

御ちこの御中 御ひろうかしく

天文十八正下

證如上人座右日記

天文十八年正月二十日

一徒 禁裡以女房奉書卅六人家集令拝領門跡経乘へ

以御書被仰越候

明治廿九年十月二十九日星ヶ岡茶寮ニテ一覽之節書記了

黒川真道

【備考】黒川真頼・真道宛大口鯛二書簡添付。

B 「證如上人」…本願寺光教。永正十三年1516〜天文二十三年1554。第十世。

「黒川真道」…慶応二年1866〜大正十四年1925。真頼三男。

(18) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】三三三—二九—一— / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題「歌仙家集<sup>八二</sup>」 / 内題「柿本集上(下)」 / 「歌仙家集」のうち / 躬恒集と

合

【翻刻】

A (表紙右側書入)

村田春海校合本

B (題箋書入)

珎蔵本

C (前遊紙書入)

家仙集に見えざる歌拾九首也

D (前遊紙書入)

千載集雑中上 大納言実家のもとに三十六人集をかき

て返しつかはしける中に故大炊御門の右大臣のかきて侍りける

さうしにかきておしつけられて侍ける

太皇太后后

木のもとにかきあつめたる言の葉を別れし秋のかたみとそ見る

返し

このもとにかくことの葉を見るたひにたのみし陰のなきそ悲しき

三十六人の歌仙は四條大納言の撰なりもとはおのく秀哥を

取て定められたるか後にいたりてはまちくなり十八番に

つかへる事は覚盛法師とかや

後拾遺集序云大納言公任卿みそちあまりむつの哥人をぬ

きいて、これかれたへなる哥も、ちあまりいそちをかきいたし

云々

統後撰恋二 題しらす 柿本人丸

<sup>万十一号</sup>かくてのみこひやわたらむ玉きはる命もしらす年はへにけり

云々

E (人麻呂集上巻末書入)

万第十一 紀朝臣男梶應詔哥云 山のかひそことも見えすをとつひも

きのふもけふも雪のふれ、は もし此哥のかやうになれるにや

夫木七 早苗 家集 人丸

あすよりはそとも小田に袖ぬれてとし草のさなへとりぬへらなり

同廿 家集

朝なくたつ川霧の寒きかも竹原山のもみちそめけん

F (人麻呂集巻末書入)

夫木廿 家集 人麻呂

ほと、きす鳴さほ山の松の葉のねんころみまくほしき君かな

同三十一 家集 人丸

家の井の玉分里に妹を置いてこひわたらん長き春日を

同十三 家集 人丸

秋くれはかふかの山に立霧を海とそみつる浪た、なくに

万代集 巻頭

きのこそつきはよきしかいつのまに春の霞の立にけらしな

夏にして春の山を見渡せは小松の枝にかすみたなひく  
六首あり

G (人麻呂集下卷末)

書寫本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣在

H (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

I (刊記右傍書入)

此書入は村田翁自筆なり 真頼

【備考】Cの後に歌十九首の書入あり。

A 「村田春海」 I 「村田翁」：延享三年 1746 ～ 文化八年 1811。

G 「藤原朝臣」 ↓ 2 柿本人麻呂(1)参照

I 「真頼」：黒川真頼。文政十二年 1829 ～ 明治三十九年 1906。

(19) 中田光子氏

【マイクログ】ナ三―四―一―一／紙焼写真C六〇七三／写二冊／外題「歌

仙家集 一」／内題「柿本集上(下)」／「歌仙家集」のうち／躬恒集・

素性集・猿丸大夫集・家持集・業平集・兼輔集・敦忠集・公忠集と合

【翻刻】

A (見返し)

富士谷成章校本

B (見返し)

刊本二卷上六十四首下二百三十五首合二百九十九首内見本比古本廿

四首多／

古本一卷六百四十五首内見本比刊本三百七十三首多

C (人麻呂集上卷頭)

宜本其本合二百九十八首次第与刊本大同五ヶ所相違下標ス比刊三首

少二首多内一首見補／

D (人麻呂集卷軸歌注記)

六百四六

古大尾

但歌数ハ六百四十五首也今偶次第ヲ誤テ三百三十三ヲ失スル故ニ如斯

E (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣在

F (二冊目、小大君集末)

寛政七年九月七日始五卷まで校合十三日終る

藤原のり之

G (四冊目、順集)

寛政七卯年十一月廿七日始從六卷十卷まで

十二月三日校合をはる

藤原徳之

H (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長〔花押〕

【備考】

A 「富士谷成章」 ↓ 2 柿本人麻呂(14)参照

E 「藤原朝臣」 ↓ 2 柿本人麻呂(1)参照

F G 「藤原のり之」 ↓ 2 柿本人麻呂(14)参照

H 「加茂季鷹」 ……宝暦四年1754 ↓ 天保十二年1841。

「藤原濱臣」 ……清水浜臣。安永五年1776 ↓ 文政七年1824。

「長〔花押〕」 ……未詳。

(20) 大東急記念文庫

【影印】「大東急記念文庫善本叢刊中古中世篇第六卷 和歌Ⅲ」所収(二〇

〇八年十一月、汲古書院) / 写一帖 / 外題ナシ / 内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

花蘭左府うへの自筆云々

右近衛大将

B (同)

真観自筆奥書  
自院可書進之由被仰下以件本先書  
寫之

色々色紙青羅表紙

右大将美氏八前相国云々

建長四年二月九日書之翌日相具

貫之集進云々

御料紙内陰色紙也 沙門真観

C (同)

弘安四年秋比書之了〔花押〕

【鑑定】

D (極札)

鷹司殿基忠公〔琴山〕

【備考】

A 「花蘭左府」 ……源有仁。康和五年1103 ↓ 久安三年1147。

「右近衛大将」 ……西園寺実氏。建久五年1194 ↓ 文永六年1269。貞応元年1222

↓ 貞永元年1232 右大将。

B 「真観」 ……葉室光俊。建仁三年1203 ↓ 建治二年1276。嘉禎二年1236 出家。

D 「鷹司殿基忠」 ……宝治元年1247 ↓ 正和二年1313。

(21) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十二卷 素寂本私家集 西山本私家集」

所収(二〇〇四年二月、朝日新聞社) / 写一冊 / 外題「人麿集」 / 内題

「人丸集上(下)」

【翻刻】

A (表紙右下)

清誉

B (下巻末)

正嘉元年三月十九日

以為繼朝臣本

書之了

清誉

【備考】

A B 「清誉」：法印清誉。嘉禎三年1237生か。藤原北家長良流、非藏人木

工権頭從四位下清実男。

B 「為繼朝臣」：藤原為繼。建永元年1206〜文永二年1265。信実男。天福元年1233從四位下、正嘉二年1258從三位。

(22) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十二卷 素寂本私家集 西山本私家集」

所収(二〇〇四年二月、朝日新聞社)／写一冊／外題「柿本人麿集」

／内題「柿本人麿集上(中・下)」(目録題)

【翻刻】

A (表紙右下)

義空

B (扉)

写本云

寛元三年八月五日以或

所御本書了此書一

本書也

哥都合七百六十首

尤可秘、□

C (下巻末)

本云

建長五年五月八日以繼

前槐御本書写校合了

可秘、□ 日孝

D (一〇才貼紙)

万葉の中抜書とみえたれとも方に

いらざる哥も此集にのせたり

【備考】

A 「義空」：承空周辺の僧侶か。生没年未詳。

C 「繼前槐」↓2 柿本人麻呂(2)参照

「日孝」↓2 柿本人麻呂(2)参照

(23) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十八卷 詞林采葉抄 人丸集」所収(二

〇〇五年六月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題ナシ / 内題ナシ

〔翻刻〕

〔鑑定〕

A (紙片)

定家御筆 但奥

もみちはのちりぬる一哥ヨリ

末二枚 為家御筆曰

(24) 国文学研究資料館 (ア二一三一)

〔原本〕 刊一冊 / 外題「哥仙家集」人九 一 (合点は朱) / 内題「柿本集

上(下)」 / 「哥仙家集」のうち / 躬恒集と合

〔翻刻〕

A (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣在

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記後書入)

以大坂江田氏古本并家本一校了

平入道法橋

兼誼 (花押)

明和第七月四日

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐權守賀茂

寛政十一年五月十二日

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

季鷹 (花押)

〔備考〕

C 「平入道法橋兼誼」：猪苗代兼誼。享保五年 1720 ~ 享和三年 1803。

「甲斐權守賀茂季鷹」 ↓ 2 柿本人麻呂 (19) 参照

「菟道上林政義」：未詳。

(25) 国文学研究資料館 (ア二一四一)

〔原本〕 刊一冊 / 外題「歌仙家集」人九 一 / 内題「柿本集上(下)」 / 「歌仙家集」のうち / 躬恒集と合

〔翻刻〕

A (前遊紙一丁オモテ書入)

萬葉集目錄歌集云柿本朝臣人丸哥入二八十三首此外家集中出之哥三百

余首云然者人丸家集者萬葉以前之書歟万葉所入之歌 / 何皆不付作者而

限八十余首乎又世間流布人丸集相遠萬葉所引載之歌其故者世間流布本

歌三百十余首也其中他人哥人〇十四首云々又雖 / 無作者之歌入彼家集大

以不審歟<sup>云々</sup>

顯昭云人丸家集不審多歟又於世流布集猶本今不同歟儘可考合也奈良帝御集人丸赤人家持猿丸等集殊難指南歟

又云人丸者大宝以往之人也彼家集序引載天平勝宝五年橘大臣問答之條甚有疑殆但諸家集者或作者自書集之或沒後書集之然者人丸／集勝宝五年以後他人集之歟或又人丸自雖書集於序者後人追書加歟是書籍常事也カ、レハムカシハ序ノアリシニコソ

B (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣<sup>在</sup>

C (同・朱書入)

以一古本國名以下一校了〔花押〕

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡粹

(26) 国文学研究資料館 (ア二一五一)

〔原本〕刊一冊／外題「歌仙和歌集／柿 躬」〔柿 躬〕は朱書／内題

「柿本集上(下)」／「歌仙家集」のうち／躬恒集と合

〔翻刻〕

A (人麻呂集上卷頭書入)

刊本二卷上六十四首<sup>下</sup>二百三十五首合二百九十九首<sup>内復五首</sup>比古本廿四首多／

B (同)

宜本<sup>上六十五首</sup>合二百九十八首次第与刊本大同五ヶ所相違下二標ス比刊三首少二首多内一首見補／

C (同)

古本一卷

六百四十五首

内復二首數六百四十三首

比刊本三百七十三首多

D (人麻呂集卷軸歌、朱書入)

六百四六

古大尾

但歌數ハ六百四十五首也今偶次第ヲ誤テ三百三十三ヲ失スル故ニ如此

E (人麻呂集下卷末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣<sup>在</sup>

F (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也編梓

G (刊記後朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

G 「大橋長廣」…天明八年1788〜嘉永四年1851。本居大平の門。

元禄十丁丑三月日

範（実カ）

【備考】

A 「真鏡山豪諄」…未詳。

B 「藤原朝臣」…2 柿本人麻呂(1)参照

C 「範（実カ）」…未詳。

(27) 国文学研究資料館 (カ二―二四)

【原本】写一冊／外題ナシ／内題「柿本集上」

【翻刻】

A (上巻末)

此集はいつのころよりつたはれるか又いかなる人の

あつめたるにか萬葉集をもよくよみえぬもの、

しはさなるへくこと、人丸の歌ともきゝえず

みむ人よふせすはまよひぬへし

真鏡山豪諄

B (巻末)

書写本色紙手跡古體也

建長五年六月日

此本以三ヶ之本校正了

同六年三月日 藤原朝臣實カ

C (同)

右御書物者重書写再三校正之

〈奥書・刊記等ナシ〉

(28) 鶴見大学図書館

【マイクロ】一七―一四―一／紙焼写真C二五七二／写一帖／外題ナシ

／内題「柿本集上(下)」／貫之集と合

(29) 内閣文庫 (二〇―四三三)

【マイクロ】一九―四三―五―一／紙焼写真C五二一〇／写一冊／外題

「柿本集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「柿本集上(下)」

／三十六人集のうち

(30) 宮内庁書陵部 (五〇―四七)

【マイクロ】二〇―二―一／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「柿本集」／内

題「柿本集」

(31) 宮内庁書陵部 (五―二二)

【マイクロ】二〇―二五―二―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙集

一「人丸集」／内題「柿本人丸集」(下巻)／「歌仙集」のうち

(32) 宮内庁書陵部 (五〇六一八)

【マイクロ】二〇―四五―一―／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「柿本集  
一」／内題「柿本集上(下)」／三十六人集のうち

(33) 宮内庁書陵部 (五一〇一三)

【マイクロ】二〇―四八―一―／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「柿本集  
一」／内題「人丸集上(下)」／三十六人集のうち／影印本「三十六人  
集 御所本 人丸集」(一九七〇年一月、新典社)あり。

(34) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一―九四―一―／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ  
／内題「柿本人丸集」

(35) 刈谷市中央図書館村上文庫 (一四七七)

【マイクロ】三〇―八三―六―一―／紙焼写真C二八八五／写一冊／外題「柿  
本集／山部集」／内題「柿本朝臣人麻呂家集」／赤人集と合

(36) 水府明德会彰考館徳川博物館 (巳五―〇六九一七)

【マイクロ】三二―二八三―五―／紙焼写真C七〇三三／写一冊／外題「?  
本人麻呂集 全」／内題「柿本人麻呂集上(中・下)」

(37) 大阪市立大学学術情報総合センター森文庫 (九二―一―二八KAK)

【マイクロ】五一―一―八―一―／紙焼写真C七八一五／写一冊／外題ナ  
シ／内題「人麻呂百首」〔扉題〕

(38) 陽明文庫 (近―サー六八)

【マイクロ】五五―七〇八―二―一―／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「柿本  
集」／内題「柿本集」／三十六人集のうち

(39) 神宮徴古館 (三九九三)

【マイクロ】六二―一―一―一―六―／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「柿  
本人麿集」／内題ナシ／哥仙集のうち

(40) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十八卷 詞林采葉抄 人丸集」所収(二  
〇〇五年六月、朝日新聞社)／写一帖／外題「柿本家集」／内題「柿本  
集上」「下帖」／書陵部蔵「柿本家集」(五〇―一―二六二)の親本(書陵  
部本のマイクロはナシ)

3 山辺赤人「書目3・大成1-5」6・新編増補

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 宮内庁書陵部 (五二〇一―二)

【マイクロ】二〇―四八―一―二―紙焼写真ナシ／写一帖／外題「赤人集 廿二」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

山辺赤人

【備考】影印本『三十六人集 御所本 赤人集』(一九七〇年七月、新典社)あり。

(2) 長野市旧真田家本 (二〇)

【マイクロ】二八―二―二―紙焼写真C九七二／写一冊／外題ナシ／内題「赤人集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2 柿本人麻呂(5)A参照

(3) 神宮文庫 (三／一〇六〇)

【マイクロ】三四―二八―四／紙焼写真C二二／写一冊／外題「赤人集」／内題ナシ

【翻刻】

A (巻末)

山邊宿祢赤人 先祖不見官位不詳

如萬葉集者神龜元年冬幸于紀伊國時作哥

同三年秋来于播磨國印南郡時從駕作哥

天平八年夏十于芳野離宮時應詔作哥

如國史者每度從駕百寮六位以下授位賜祿<sup>云々</sup>

如此之間已從駕獻和哥定進位階歟然者記

録無之歟

(4) 神宮文庫 (三／二〇四)

【マイクロ】三四―一―三四―一―紙焼写真C四六四九／写一冊／外題「山邊赤人」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

飛鳥井所本以而見合也

慶長十二年卯月日 也足叟

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「也足叟」…中院通勝。永祿元年1558〜慶長十五年1610。

B 「村井古巖敬義」↓2 柿本人麻呂(6)参照

(5) 名古屋市蓬左文庫 (一〇六一三七)

【マイクロ】四八一—一〇—三—二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「赤人集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2 柿本人麻呂(8) A 参照

(6) 陽明文庫 (近一二二—二—)

【マイクロ】五五—七—五—二—六／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「赤人集」／内題「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓2 柿本人麻呂(9) A 参照

A (筆者目録)

赤人 庭田中納言景定

【備考】

A 「庭田中納言重定」↓2 柿本人麻呂(9) 参照

(7) 神宮徴古館 (三九九三)

【マイクロ】六二—二—二—一—三／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「山邊赤人集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

山邊宿祢赤人 先祖不見官位不詳

如万葉集者神龟元年冬辛于

紀伊国時作歌同三年秋辛于

播磨国印南郡時從駕作哥

天平八年夏幸于芳野離宮

時應詔作哥如国史者每度

從駕百寮六位以下授位賜祿

云 如此之間已從駕獻和哥

定進位階歎然者記録無

之歎

B (同)

本云

本散々之間雖引勘万葉集

不直付事等多之尋證本可校

勘歎

(8) 今治市河野美術館 (三四七—八四—)

【マイクロ】七三—三—五—八—二—二／紙焼写真C九一五九／写一冊／外題「日本書紀山邊宿祢歌集 全」／内題「山邊宿祢赤人 四十九首」／人麻呂集と合

【翻刻】

A (赤人集卷末)

飯田武郷 抄録

岩本尚賢 写之

【備考】

A 「飯田武郷」「岩本尚賢」↓2 柿本人麻呂(12) 参照

(9) 京都女子大学図書館吉沢文庫 (Y W 九一・二〇八—K—一〇)

【マイクロ】二四二—五九—一—五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「哥仙  
家集」赤人 五冊 十／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・順  
集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2 柿本人麻呂(14) F S も参照

A (赤人集巻頭書入)

刊本二百四十七首／古本三百廿六首／宜本二百卅七首／刊ト全同シテ  
／脱アリ

B (十冊目順集巻末書入)

文化五年壬六月朔日夜一校畢〔花押〕

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

D (十五冊目中務集巻末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢〔花押〕

【備考】

B D 〔花押〕：村田春門↓2 柿本人麻呂(14) 参照

(10) 大和文華館 (三—三九二二)

【マイクロ】二五七—一五二—一—五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「哥  
仙集 其五」／内題「赤人集」／「哥仙集」のうち／朝忠集・小大君

集・高光集・中務集・忠見集・家持集・兼輔集と合

【翻刻】

A (兼輔集末)

萬治二とせ小春後八日豊のまへ中津河  
にして書之八人の哥あり

詠替宗連坊〔花押〕

【備考】

A 「詠替宗連坊」↓2 柿本人麻呂(15) 参照

(11) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B 七—一五—一〇)

【マイクロ】三三二—六八—一—二／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題ナシ  
／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・順集と合

【翻刻】

A (赤人集見返し書入)

おく山のおせみの花花押 しまのはしはみ りうたうも名のみ也け  
り／

いなおほせ鳥 元真字ハ清用 あたし野野 都鳥

あはれ木木 をしのはらへ也也 けたのみやま木木

B (赤人集巻頭書入)

刊本二百四十七首／古本三百廿六首／宜本二百卅七首／刊ト全同シテ  
脱アリ

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

(12) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C一/三四一二)

【マイクロ】三三三二―七二一―一六／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「赤人集 二十无 二十一」／内題「赤人家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目録題〕／「本願寺本三十六家集」のうち

B (刊記右傍書入)

此書人は村田翁自筆なり 真頼

【備考】

B 「村田翁」真頼 ↓ 2 柿本人麻呂 (18) 参照

【翻刻】本願寺本三十六家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂 (17) AB 参照

A (見返し)

萬葉集卷十一見あはすへし

B (人丸集巻頭)

赤人

伊勢

宗子

興風

右本ハイツレモ大和綴ニシテ糊ニテ綴リタリ糸ヲ用キシモノナシ  
本ノ豎五寸五分横四寸一分表紙ハ切表紙ナレトモ皆ヤツレタリ

(13) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】三三三二―二九一―一―二二／紙焼写真ナシ／刊二冊／外題「哥仙家集 赤人 十」／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち

【翻刻】

A (中務集巻末刊記)

(14) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三三二―二九五―一―二五／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「赤人集」／内題「赤人集」〔扉題〕／三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (巻末)

一校了

(15) 島原図書館肥前鳴原松平文庫 (一三五―六二)

【マイクロ】三五八―一四二―一八／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「赤人集」／内題ナシ

【翻刻】

A (巻末)

山邊宿祢赤人 先祖不見官位不詳

如万葉集者神龟元年冬幸于紀伊国時作歌

同三年秋幸于播磨国印南郡時從駕作哥

天平八年夏幸于芳野離宮時應詔作哥

如国吏者每度從駕百寮六位以下授位賜禄<sup>云</sup>

如此之間已從駕獻和哥定進位階歟然者記

録無之歟

B (同)

本云

本散々之間雖引勘万葉集不直付事

等多之尋證本可校勘歟

(16) 中田光子氏

〔マイクロ〕ナ三―四―一―二二／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題

「哥仙家集 四」／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・源

順集・元輔集・朝忠集・高光集・友則集・小町集・忠岑集・頼基集と合

〔翻刻〕歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19)F、Hも参照

A (赤人集巻頭)

刊本二百四十七首古本三百廿六首宜本二百卅七首刊ト全同シテ脱アリ

B (四冊目、順集)

寛政七卯年十一月廿七日始從六卷十卷まで

十二月三日校合をはる

藤原徳之

〔備考〕

B 「藤原徳之」↓2柿本人麻呂(14)参照

(17) 冷泉家時雨亭文庫

〔影印〕「冷泉家時雨亭叢書 第六十五卷 資経本私家集 一」(一九九八

年二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「山邊集」／内題ナシ

〔翻刻〕

A (表紙)

十四枚 一見了

B (巻末)

山邊赤人

(18) 国文学研究資料館(ア二一三一〇)

〔原本〕刊一冊／外題「哥仙家集<sup>抄</sup>」十(合点は朱)／内題「赤人

集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・順集と合

〔翻刻〕

A (赤人集巻頭朱書入)

刊本二百四十七首比古本四十六首多<sup>(内題二首アリ、四十五頁ト云ヘシ)</sup>

古本三百廿六首比刊本百十九首多<sup>(内題二首アリ、補別附)</sup>

家本二百三十七首刊ト全同シテ脱アリ

B (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記後書入)

以大坂江田氏古本<sup>并</sup>家本一校了

平入道法橋

明和第七四月六日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐権守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九<sup>五</sup>三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

【備考】

C 「平入道法橋兼誼」〔菟道上林政義〕↓2柿本人麻呂(24)参照

「甲斐権守賀茂季鷹」↓2柿本人麻呂(19)参照

(19) 国文学研究資料館 (ア二一四一〇)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集<sup>赤人</sup>」<sup>海防</sup>／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・順集と合

【翻刻】

A (赤人集末尾朱書入)

以一古本校合了

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

(20) 国文学研究資料館 (ア二一五一〇)

【原本】刊一冊／外題「<sup>赤</sup>朱書」<sup>上</sup>／内題「赤人集」／「歌仙家集」のうち／遍昭集・順集と合

【翻刻】

A (赤人集卷頭、朱書入)

赤人集

刊本二百四十七首比古本四十六首多<sup>但内復一首アリ</sup>  
<sup>四十五首と云フアヘシ</sup>

古本三百廿六首比刊本百十九首多<sup>但内復一首アリ</sup>  
<sup>別編二冊ス</sup>

宜本二百三十七首刊ト全同シテ脱アリ 補別附

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

C 「大橋長廣」↓2柿本人麻呂(26)参照

〈奥書・刊記等ナシ〉

(21) 内閣文庫 (二〇一四三三)

【マイクロ】一九一—四四一—二／紙焼写真C五一一〇／写一冊／外題

「赤人集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「赤人集」／三

十六人集のうち

(22) 宮内庁書陵部 (五二—二二)

【マイクロ】二〇—二五—二六／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「歌仙集  
四」(表紙左)「家持集 猿丸集／赤人集／業平集／遍昭集／素性集／  
友則集」(表紙中央)／内題「山邊赤人集」／「歌仙集」のうち／家持  
集・遍昭集・素性集・友則集・猿丸集と合

(23) 宮内庁書陵部 (五〇六—八)

【マイクロ】二〇—四五—二〇／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「山邊  
赤人集」／内題ナシ／三十六人集のうち

(24) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二二—三〇—二二／紙焼写真C二八七／写一帖／外題  
「哥仙家集猿丸」／内題「赤人集」／「哥仙家集」のうち／遍昭集・順  
集と合

(25) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二二—九四—一六／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ  
／内題「山邊赤人集」／三十六人集のうち／家持集・業平集・遍昭集・  
素性集・友則集・猿丸大夫集と合

(26) 刈谷市中央図書館村上文庫 (一四七七)

【マイクロ】三〇—八三—一六—二／紙焼写真C二八八五／写二冊／外題「柿  
本集／山部集」／内題「山部宿禰赤人家集」／人麻呂集と合

(27) 陽明文庫 (別置)

【マイクロ】五五—五四六—一—三／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「あか  
人」／内題ナシ／「本願寺本三十六人集」(箱書)のうち

(28) 陽明文庫 (近—サー六八)

【マイクロ】五五—七〇九—一—五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「家持  
赤人 業平／遍昭 素性 友則」／内題「赤人集」／三十六人集のう  
ち／家持集・業平集・遍昭集・素性集・友則集と合

(29) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七—一—一—六／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題「赤  
人集 六」／内題「赤人集」／三十六人集のうち

(30) 熊本大学附属図書館北岡文庫 (三三三号赤二—二)

【マイクロ】三二—四—一—五—一—一—一／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌  
仙家集」／内題「赤人集」／「歌仙家集」のうち／伊勢集と合

(31) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第六十九卷 承空本私家集 上」所収(二〇  
〇二年八月、朝日新聞社)／写一冊／外題「赤人集」／内題ナシ

4 大伴家持〔書目4・大成11758〕

〔奥書・刊記等アリ〕

(1) 宮内庁書陵部(五二〇一二)

〔マイクロ〕二〇―四八―一―五／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「家持集

五」／内題ナシ／三十六人集のうち

〔翻刻〕

A (家持集卷末)

中納言家持

大納言大伴旅人男右大臣長孫

天平 年任内舍人 十七年正月從五下 十八年三月

宮内少輔六月越中守 廿一年四月從五上 天平勝寶

六年兵部少輔十一月為山陰道使 天平寶字二季六月

因幡守 六年正月 部大輔 八年正月薩摩守神護

景雲元年八月大宰大貳四年六月民部大輔 九月左中弁

中務大甫 寶龜元年十月正五下三年二月式部樞大輔 五

年三月相模守 九月左京大夫 六年十一月左衛門督 七年

三月伊勢守 八年正月從四上 九年正月正四位下 十一年

二月參議 九年右大弁 天應元年四月春宮大夫

五年四月左大弁大友十一月十三日從三位 延暦元年閏正

月坐氷上川繼及事 先移京外 四月有詔宥罪後

參議春宮大夫同二年以本官出為陸奥出羽按

察使鎮守府將軍在任不幾七月十九日任中納言大友

三年二月任持節征夷將軍 四月八月薨後廿余

日其屍未葬大伴繼人竹良等殺中納言藤左繼

事發覺下獄掠驗之事連家持是避除名

B (同)

永仁二正廿八日書了

資經

〔備考〕影印本「三十六人集 御所本 家持集」(一九七〇年二月、新典

社)あり。

B「資經」…生没年未詳。正応五年1292〜永仁四年1296頃の書写奥書を持つ

資經本私家集四十一一点が冷泉家時雨亭文庫に現蔵されている。

(2) 長野市旧真田家本(二〇)

〔マイクロ〕二八―二二―二五／紙焼写真C九七一／写一冊／外題ナシ

／内題「家持集」／三十六人集のうち

〔翻刻〕三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

(3) 神宮文庫(三／二二〇四)

〔マイクロ〕三四―一三―四―一四／紙焼写真C四六四九／写一冊／外題

「中納言家持」／内題ナシ／三十六人集のうち

〔翻刻〕

A (卷末)

此集花山院大納言定熙所被書送也

去十一日遣之今日申刻到来長行不定

慶長十二年卯月十七日 也足子

B (同)

一校合 又飛鳥井殿本にて同カ合

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉日奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「花山院大納言定熙卿」…永祿元年1558↪寛永十一年1634。慶長四年1599↪

元和五年1619まで権大納言。慶長七年1602十二月に名を家雅から定熙に改める。

「也足子」…中院通勝↪3山辺赤人(4)参照

C 「村井古巖敬義」↪2柿本人麻呂(6)参照

(4)名古屋市蓬左文庫(二〇六一三七)

【マイクロ】四八一—一〇—三—四／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「家持

集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↪2柿本人麻呂(8)A参照

(5)陽明文庫(近一二二二—)

【マイクロ】五五—七—一五—二—五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「中納言家持集」／内題「家持集」〔首題〕・「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↪2柿本人麻呂(9)A参照

A (筆者目録)

家持 中院内大臣尊

【備考】

A 「中院内大臣通村」↪2柿本人麻呂(9)参照

(6)今治市河野美術館(三四七—八四三)

【マイクロ】七三—三五—八—四／紙焼写真C九—六一／写一冊／外題「家持集」／内題「家持集」

【翻刻】

A (見返し)

読合済

(7)熊本大学附属図書館北岡文庫(三三三—赤二—二)

【マイクロ】二二—四—一—四—五—九／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌

仙家集」／内題「家持集」／「歌仙家集」のうち／猿丸大夫集と合

【翻刻】

A (家持集卷末)

以 院御本行家朝臣筆書寫之

建長三年七月日

【備考】

A 「行家朝臣」…藤原行家。貞応二年1223～建治元年1275。知家男。寛元元年1243従四位下、建長七年1255従三位。

(8) 京都女子大学図書館吉沢文庫 (YW九一・二〇八―K―二)

【マイクロ】二四二―五八―三一五／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙家集高林 撰 九 二」／内題「家持集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸集・業平集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2 柿本人麻呂(14) F S も参照

A (家持集巻頭書入)

比古本十四首多／刊本二百九十／八首古本三／百零九首／比刊本十五首／多補別附／寫本三百一首／古本ト大抵／同小異ア／リ此巻末／ニ委注

B (家持集巻末書入)

寫本五異 一百七十八ノ哥前後スルコト刊ト同一百四十百四一ノ間古脱雲かくれ／なくなるノ哥アリ但末句ハナシ刊本ニ全首アル故ニ補不出二百五六已下／至百七十五廿首ヲ十首ツ、前後ニ出セリ一百七六已下十首■ 一百九一千鳥／ナクノ哥ヲ二百五八二百五九ノ間ニ複出セリ已上

C (二冊目業平集巻末書入)

文化四年六月十八日校合畢

村田並〔花押〕

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也續梓

E (十五冊目中務集巻末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢〔花押〕

【備考】

C 「村田並〔花押〕」 E 「〔花押〕」…村田春門↓2 柿本人麻呂(14)参照

(9) 大和文華館 (三一三九二二)

【マイクロ】二五七―一五二―一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「哥仙集 其五」／内題「家持集」／「哥仙集」のうち／朝忠集・小大君集・高光集・中務集・赤人集・忠見集・兼輔集と合

【翻刻】歌仙集全体↓3 山辺赤人(10) A 参照

(10) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七二／一五―二)

【マイクロ】三三二―一六八―一五／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙家集高林 撰 九 二」／内題「家持集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸集・業平集と合

【翻刻】

A (家持集巻頭書入)

刊本二百九十八首比古本四百首多古本三百零九首比刊本廿五首多補別附

宜本三百一首古本ト大抵同小異アリ

此卷末ニ委注

B (家持集内題下書入)

古本廿五首多十四首少

C (家持集卷末書入)

宜本五異

一百七十八ノ哥前後スルコト刊ト同一百四十百四一ノ間直雲カクレナクナル一哥アリアル故ニ補ニ不出但末句ハナシ刊本ニ全首ノ

一百五六已下至百七十五首ヲ十首ツ、前後ニ出セリ一百七六已下十首脱ノ

一百九一千鳥ナクノ哥ヲ二百五八二百五九ノ間ニ複出セリ已上

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

(11) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C二/三四一六)

【マイクロ】三三三二一七一―一五ノ紙焼写真ナシノ写一冊ノ外題「家持集 五」ノ内題「家持家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目録題〕

ノ「本願寺本三十六家集」のうち

【翻刻】本願寺本三十六家集全体↓2柿本人麻呂(17) AB参照

A (人丸集巻頭)

家持 四十四枚 内白三枚 ○

(12) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】三三三二一二九一―一五ノ紙焼写真ナシノ刊一冊ノ外題「歌仙家集諸註 異二」ノ内題「家持集」ノ「哥仙歌集」のうちノ素性集・猿

丸集・業平集と合

【翻刻】

A (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

B (刊記右傍書入)

此書入は村田翁自筆なり 真頼

【備考】

B 「村田翁」「真頼」↓2柿本人麻呂(18)参照

(13) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三三二一二九五―二一三ノ紙焼写真ナシノ写一冊ノ外題「家持集」ノ内題「家持集」ノ三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (巻末)

一枚了

(14) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三―四―一―五／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題「歌仙家集 一」／内題「家持集」／「歌仙家集」のうち／人麻呂集・躬恒集・素性集・猿九大夫集・業平集・兼輔集・敦忠集・公忠集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19)F、Hも参照

A (家持集見返し書入)

刊本二百九十八首古本三百零九首比刊本二十五首多補別附

宜本三百一首古本ト大抵同小異アリ此卷末ニ委注

B (家持集巻頭書入)

比古本十四集多シ

古本二十五首多十四首少

C (家持集末尾書入)

○宜本五異 ○百七百八ノ歌前後スルコト刊ト同○百四十百四ノ間古歌

雲カクレナクノナルノ哥アリ但本ノ外ナシ和采ニ  
全百アル故ニ疑不出 ○百五六已下至百七五廿

首ノ十首ツ、前後ニ出セリノ○百七六已下十首脱○百九一千鳥ナクノ哥

ヲ二百五八二百五九ノ間ニ複出セリ已上

D (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長〈花押〉

【備考】

D「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長〈花押〉」↓2柿本人麻呂(19)参照

(15) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第六十五卷 資経本私家集 一」所収(二九  
九八年二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「家持卿」本人時多々書／内題ナシ／伊勢  
集・貫之集と合

【翻刻】

A (表紙)

一見了

B (巻末)

中納言家持

大納言大伴旅人男大伴旅人長孫  
大納言安房孫

天平 年任内舍人 十七年正月從五下十八年三月

宮内少輔六月越中守廿一年四月從五上 天平勝寶

六年兵部少輔十一月為山陰道使天平寶字二季六月

因幡守 六年正月 部大輔 八年正月薩摩守神護

景雲元年八月大宰大貳四年六月民部大輔九月左中弁

中務大甫 寶龜元年十月正五下三年二月式部權大輔五

年三月相模守九月左京大夫六年十一月左衛門督七年

三月伊勢守 八年正月從四上 九年正月正四位下十一年

二月參議 九年右大弁天應元年四月春宮大夫

五年四月左大弁大元十一月十三日從三位 延暦元年閏正

月坐水上川繼及事先移京外四月有詔宥罪後

參議春宮大夫同二年以本官出為陸奥出羽按

察使鎮守府將軍在任不幾七月十九日任中納言大夫

三年十一月任持節征夷將軍四月年八月薨後廿余

日其屍未葬大伴繼人竹良等殺中納言藤左繼

事發覺下獄掠驗之事連家持是避除名

C (同)

永仁二正廿八日書了

資經〔花押〕

〔備考〕

C「資經」↓4大伴家持(1)參照

(16) 冷泉家時雨亭文庫

〔影印〕「冷泉家時雨亭叢書 第六十九卷 承空本私家集 上」所収(二〇)

○二年八月、朝日新聞社) / 写一冊 / 外題「家持卿集」 / 内題ナシ

〔翻刻〕

A (卷末)

中納言家持

大納言大伴旅人男先夫因長曾孫  
大納言安賢

天平 年任内舍人 十七年正月從五下

十八年三月宮内少輔六月越中守

廿一年四月從五上 天平勝寶六年

兵部少輔十一月為山陰道使天平

寶字二年六月因幡守六年正月

部大輔八年正月薩摩守神

護景雲元年八月大宰大貳四年

六月民部大輔九月左中弁中務

大輔宝龜元年十月正五下三年

二月式部權大輔五年三月相模守

九月左京大夫六年十一月左衛門督

七年三月伊勢守八年正月從四上

九年正月正四位下十一年二月參

議九年右大弁天應元年四月

春宮大夫五年四月左大弁元年

十一月十三日從三位延曆元年閏正月

坐水上川繼及事先移京外四月

有詔宥罪後參議春宮大夫

同二年以本官出為陸奥出羽按察

使鎮守府將軍在任不幾

七月十九日任中納言大夫三年

二月任持節征夷將軍四月年

八月薨後廿余月其屍未

葬大伴繼人竹良等殺中納言

藤左繼事發覺下獄掠驗之

事連家持是避除名

B (同)

永仁二年六月廿五日  
於室町宿所書写之

承空

C (同)

承空上人

寄進之

【備考】

BC「承空」：鎌倉時代浄土宗西山派の僧侶。仁治二年1241～元応元年1319

(一説に元亨三年1323)。宇都宮泰綱男。

(17) 国文学研究資料館 (ア二一三一―二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集」本姓 兼九 二 (合点は朱)／内題「家持集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸集・業平集と合

【翻刻】

A (家持集巻頭書入)

刊本二百九十八首

古本三百零九首

家本三百一首

古本ト大同小異

此巻末ニ委注

B (同)

比古本十四集多

比刊本二十五首多 補別附

C (同)

古本并五首多十四首少

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也續梓

E (刊記後書入)

以大坂江田氏古本并家本一校了

平入道法橋

明和第七月四日

兼誼〈花押〉

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐權守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〈花押〉

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九年三月八日 菟道上林

政義〈花押〉

【備考】

E 「平入道法橋兼誼」「菟道上林政義」↓2柿本人麻呂(24)参照

「甲斐權守賀茂季鷹」↓2柿本人麻呂(19)参照

(18) 国文学研究資料館 (ア二一四―二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集」本姓 兼九 二／内題「家持集」／「哥仙家

集」のうち／素性集・猿丸集・業平集と合

【翻刻】

A (家持集末尾朱書入)

以一古本校合了

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

(19) 国文学研究資料館 (ア二一五―二)

【原本】刊一冊／外題「素性集」(朱書)／内題「家持集」／「歌仙家集」のうち／素性集・猿丸集・業平集と合

【翻刻】

A (家持集巻頭書入)

刊本二百九十八首 古本三百零九首

亘本三百一首 古本ト大抵同小異アリ此巻末ニ委注ス

比古本十四集多 比刊本廿五首多 補別附

B (家持集末尾書入)

亘本五異

一百七十八ノ哥前後スルコト刊本ト同一百四百四一ノ間古脱

一百五六已下至百七十五首ヲ十首ツ、前後ニ出セリ

一百七六以下十首脱一百九一千鳥ナクノ哥ヲ二百五八■百五九ノ間ニ

複出セリ以上

C (同)

雲カクレ鳴ナルノ哥アリ

但末ノ句ハナシ刊本ニ全首アル

ユエニ補不出

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

E (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

E 「大橋長廣」↓2 柿本人麻呂(26)参照

(20) 国文学研究資料館松野陽一氏旧蔵書 (五四―二六)

【原本】写一冊／外題「集」恒恒 (虫損で判読不能)／内題「家持集」／躬恒集と合

【翻刻】

A (後表紙裏)

明治三十四年七月上葉

武田豊吉より買入

【備考】

A 「武田豊吉」…未詳。

〈奥書・刊記等ナシ〉

(21) 内閣文庫 (二〇一四三三)

【マイクロ】一九一四三―五―五／紙焼写真C五二〇／写一冊／外題「家持集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「家持集」／三十六人集のうち

(22) 宮内庁書陵部 (五〇一―一六〇)

【マイクロ】二〇一六―五／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「家持集」／内題ナシ

(23) 宮内庁書陵部 (五一一―二)

【マイクロ】二〇一五―二―五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙集」  
四「(表紙左)「家持集 猿丸集／赤人集／業平集／遍昭集／素性集／友則集」(表紙中央)／内題「中納言家持集」／「歌仙集」のうち／赤人集・業平集・遍昭集・素性集・友則集・猿丸集と合

(24) 宮内庁書陵部 (五〇六―八)

【マイクロ】二〇一四―五―一―五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「中納言家持集 五」／内題「家持集」／三十六人集のうち

(25) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一一三〇―一―五／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥

仙家集<sup>素性集 猿丸</sup>／内題「家持集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸大夫集・業平集と合

(26) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一九四―一―五／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ  
／内題「中納言家持集」／三十六人集のうち／赤人集・業平集・遍昭集・素性集・友則集・猿丸大夫集と合

(27) 陽明文庫 (別置)

【マイクロ】五五―五四六―一―一／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「やかもち」／内題ナシ／「本願寺本三十六人集」(箱書)のうち

(28) 陽明文庫 (近―サー六八)

【マイクロ】五五―七〇九―一―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「<sup>家持 赤人 業平</sup>家持集」(首題)・「家持」(扉題)／三十六人集のうち／赤人集・業平集・遍昭集・素性集・友則集と合

(29) 神宮徴古館 (三九九三)

【マイクロ】六二―一―一―一八／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「中納言家持集」／内題ナシ／三十六人集のうち

(30) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七一―一五／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題

「家持集 五」／内題「家持集」／三十六人集のうち

5 弘法大師「書目5・大成ナシ」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 水府明德会彰考館徳川博物館 (E10107099)

【マイクロ】三二―三二―三二―三二―三二／紙焼写真C七二八〇／写一冊／外題

「弘法大師詠歌 道元禪師詠歌 全」／内題「弘法大師詠歌／道元禪師詠歌」〔扉題〕／道元禪

師詠歌と合

【翻刻】

A (弘法大師詠歌末尾)

右は弘法大師自詠也和哥洛東泉涌寺の寶藏に有とて

近比智積院の所より写し送來る所なり

(2) 市立函館図書館 (五六)

【マイクロ】五六―一四五―三／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題ナシ／内題

「弘法大師御詠歌」

【翻刻】

A (序)

寶曆九歲次己卯

閏七月上浣

高野山大樂院靈信叙

B (序)

宝曆九己卯歲夏六月吉日

阿紋観性蓮智養居士謹書

C (跋)

浪華北野密場故人

D (刊記)

撰者 浪華阿紋 安田蛙文

翰士 浪華 桂井蒼八

寶曆九乙卯歲九月吉日

書肆 大阪堀の内南七丁目 浪花屋忠五郎

【備考】

A 「高野山大樂院靈信」：未詳。金剛峯寺檢校（天明六年1786任）靈信か。

「大樂院」は南谷花王院の南側に位置していたが、元治元年1864全焼。

B 「阿紋観性蓮智養居士」：安田蛙文。生没年未詳。江戸中期の浄瑠璃等作者。

C 「浪華北野密場故人」：未詳。「北野密場」は太融寺（現大阪市北区）か。  
D 「安田蛙文」：B 「阿紋観性蓮智養居士」に同じ

「桂井蒼八」：桂井在高。生年未詳、明和二年1765。通称蒼八。号酒人。

6 猿丸大夫「書目6・大成1-19、10」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 宮内庁書陵部（五〇一―二六）

「マイクロ」二〇―二四―二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「猿丸集」／内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

已上詞五十四首

B (同)

寶治三年 先年以西本書寫了校合了

寶治三年己酉正月廿八日以法住寺少将本校合了

建長六年正月十七日以九条本校合畢

【備考】

B 「法住寺少将雅平」：藤原雅平。寛喜元年1229、弘安元年1278。仁治元年1240任右少将、建長五年1253転左中将。

(2) 宮内庁書陵部（五〇一―六八）

「マイクロ」二〇―二四―三／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「猿丸大夫集」／内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

本云

以清輔本校了

(3)宮内庁書陵部(五二〇一—二二)

【マイクロ】二〇—四八—一—四／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「猿丸集  
四」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

猿丸大夫

元慶以往人也

【備考】影印本「三十六人集 御所本 猿丸集」(一九七〇年二月、新典社)あり。

(4)長野市旧真田家本(二〇)

【マイクロ】二八—二二—二—四／紙焼写真C九七二／写一冊／外題ナシ  
／内題「猿丸大夫集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

(5)神宮文庫(三／二二〇四)

【マイクロ】三四—一三四—一—四／紙焼写真C四六四九／写一冊／外  
題「猿丸大夫」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (猿丸集卷末)

此集日野左大弁相公日野所筆也

慶長十二年卯月十五日

也足子

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉且奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「日野左大弁相公資勝卿」：慶長四年1599～慶長十三年1608まで左大弁↓

2 柿本人麻呂(9)も参照

「也足子」：中院通勝↓3 山辺赤人(4)参照

B 「村井古巖敬義」↓2 柿本人麻呂(6)参照

(6)名古屋市蓬左文庫(一〇六一—三七)

【マイクロ】四八—一—〇—三—三／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「猿丸  
集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2 柿本人麻呂(8)A参照

(7)陽明文庫(近二二二—二)

【マイクロ】五五—七—五—二—二—一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿  
丸大夫集」／内題「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓2柿本人麻呂(9)A参照

A (筆者目録)

猿丸 前大僧正尊勢

【備考】

A 「前大僧正尊勢」↓2柿本人麻呂(9)参照

(8)京都女子大学図書館吉沢文庫(YW九一・二〇八―K―二)

【マイクロ】二四二―五八―三―四／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙  
家集高橋 望九」／内題「猿丸大夫集」／「哥仙家集」のうち／素性集・  
家持集・業平集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(14)F、Sも参照

A (猿丸集巻頭書入)

古本四十九首／刊本宜本三十／七首補十五首／別付／次第刊宜全／同

古本頗有／異古十五首／多シ亘三首／多シ

B (猿丸集内題下書入)

古本十五首多三首少

C (二冊目業平集巻末書入)

文化四年六月十八日校合畢

村田並(花押)

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也線粹

E (十五冊目中務集巻末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢(花押)

【備考】

C 「村田並(花押)」E 「花押」：村田春門↓2柿本人麻呂(14)参照

(9)大和文華館(三―三九二五)

【マイクロ】二五七―一五二―一―二五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題  
「哥仙集」／内題「猿丸大夫集」(首題)・「猿丸集」(目録題)／「哥仙  
集」のうち／敏行集・素性集・興風集・遍昭集・公忠集・清正集・友則  
集・小町集・是則集・信明集・業平集・頼基集・宗子集・敦忠集・兼盛  
集・仲文集・忠岑集と合

【翻刻】

A (忠岑集巻末)

此三十六人集本数五帖にて全部也

十八人の哥あり時萬治二とせ小

春後の八日豊の前中津河にして

書之 詠替宗連坊(花押)

【備考】

A 「詠替宗連坊」↓2柿本人麻呂(15)参照

(10)ノートルダム清心女子大学附属図書館(B七二―一五―二)

【マイクロ】三三三―一六八―一―四／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙

家集素性 猿丸 一二／内題「猿丸大夫集」／「歌仙家集」のうち／素性集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (猿丸集巻頭書入)

古本四十九首刊本／且本三十七首補／十五首別補／次第刊且全同古／本頗有異古十／五首多シ且三首／多シ

B (猿丸集内題下書入)

古本十五首多三首少

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

(11) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C一／三四一五)

【マイクロ】三三二一七一―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿丸集 四」／内題「猿丸家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目録題〕

／「本願寺本三十六家集」のうち

【翻刻】本願寺本三十六家集全体↓2柿本人麻呂(17) A B参照

A (人丸集巻頭)

猿丸

十六枚

内白二枚

○

(12) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】三三二一―二九一―四／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「歌

仙家集素性 猿丸 一二／内題「猿丸大夫集」／「哥仙歌集」のうち／素性集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

B (刊記右傍書入)

此書人は村田翁自筆なり 真頼

【備考】

B 「村田翁」「真頼」↓2柿本人麻呂(18)参照

(13) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】三三二一―二九五―二一九／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿丸集 友則集」／内題「猿丸集」／三十六歌仙家集のうち／友則集と合

【翻刻】

A (猿丸集末尾)

一校了

(14) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三一四―一―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙家集 一」／内題「猿丸大夫集」／「歌仙家集」のうち／人麻呂集・躬恒

集・素性集・家持集・業平集・兼輔集・敦忠集・公忠集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19) F } Hも参照

A (猿丸集巻頭書入)

古本四十九首刊本宜本三十七首補十五首別付

次第刊宜全同古本頗有異古十五首多シ宜三首多シ

B (猿丸集内題下書入)

古本十五首多三首少

C (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長(花押)

【備考】

C 「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長(花押)」↓2柿本人麻呂(19)参照

(15) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十一巻 平安私家集 八」所収(二〇〇

一年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「猿丸大夫集」 / 内題ナシ

【翻刻】

A (巻末)

先年以西本書寫了校合了

寶治三年己酉正月廿八日以法性寺少將

本校合了

建長六年以九条本校合了

【備考】

A 「法性寺少將」↓6猿丸大夫(1)参照

(16) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第六十五巻 資経本私家集 一」所収(二九

九八年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「猿磨集資経本」(後補表紙)

「猿丸集」(元表紙) [ ] 夫」(元表紙左上) / 内題ナシ / 伊勢

集・貫之集と合

【翻刻】

A (元表紙)

一見了

B (巻末)

猿丸大夫

元慶以往人也

C (後表紙)

永仁二正七書了

[ ] 原資経(花押)

【備考】

C 「藤原資経」↓4大伴家持(1)参照

(17) 国文学研究資料館 (ア二一三一一)

【原本】刊一冊 / 外題「哥仙家集素性集」(合点は朱) / 内題「猿丸

大夫集」 / 「哥仙家集」のうち / 素性集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (猿丸集巻頭書入)

次第刊家本全同 古本頗有異 古十五首多 刊家本三百多

B (同)

古本四十九首 / 刊家本并 / 三十七首 / 補十五首別附

C (猿丸集内題下、朱書入)

古本十五首多三首少

D (猿丸集末尾書入)

續補ニナシ

○花見にまかれる

に山川のいしに

せかれたるをみて

石はしる漉なくも

かな山桜たをり

てもこんみぬ人の

ため

○山に花見にまかりて

折とらは惜けにも

有かさくら花いさ宿かりて散までもみん

○来ん世にもはやなりならんめのまへにつれなき人を昔と思はん

E (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也緝梓

F (刊記後書入)

以大坂江田氏古本<sup>并</sup>家本一校了

平入道法橋

明和第七月四日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐権守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九年三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

【備考】

F 「平入道法橋兼誼」「菟道上林政義」↓2 柿本人麻呂(24)参照

「甲斐権守賀茂季鷹」↓2 柿本人麻呂(19)参照

(18) 国文学研究資料館 (ア二一四一二)

【原本】刊一冊 / 外題「哥仙家集<sup>素性集</sup>」 / 内題「猿丸大夫集」 / 「哥仙家集」のうち / 素性集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (猿丸集末尾朱書入)

以一古本校合了

B (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

(19) 国文学研究資料館 (ア二一五一二)

【原本】刊一冊／外題「家持集」(朱書)／内題「猿丸大夫集」／「歌仙家集」のうち／素性集・家持集・業平集と合

【翻刻】

A (猿丸集巻頭書入)

古本四十九首／刊宜本并三／十七首補十五／首別附／次第刊宜全／古

本頗有異／古本十五首多／刊宜三首多

B (猿丸集内題下、朱書入)

古本十五首多三首少

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

D (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

D 「大橋長廣」↓2 柿本人麻呂(26)参照

〈奥書・刊記等ナシ〉

(20) 内閣文庫 (二〇一四三三)

【マイクロ】一九一―四三―五―四／紙焼写真C五二一〇／写一冊／外題

「猿丸大夫集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「猿丸大夫

集」／三十六人集のうち

(21) 宮内庁書陵部 (五一一二)

【マイクロ】二〇―二五―二―一―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙

集 四」(表紙左)「家持集 猿丸集／赤人集／業平集／遍昭集／素性集

／友則集」(表紙中央)／内題「猿丸大夫集」／「歌仙集」のうち／家持

集・赤人集・業平集・遍昭集・素性集・友則集と合

(22) 宮内庁書陵部 (五〇六一八)

【マイクロ】二〇―四五―一―四／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿丸大

夫集 四」／内題ナシ／三十六人集のうち

(23) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一―三〇―一―四／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥

仙家集家持集」／内題「猿丸大夫集」／「哥仙家集」のうち／素性

集・家持集・業平集と合

(24) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一―九四―一―一〇／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ／内題「猿丸大夫集」／三十六人集のうち／家持集・赤人集・業平集・遍昭集・素性集・友則集と合

(25) 陽明文庫

【マイクロ】五五―四四―七／紙焼写真C二六四七／写一冊／外題「猿丸大夫集」／内題ナシ

(26) 陽明文庫（別置）

【マイクロ】五五―五四―三―二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「猿丸集」／内題ナシ／影印本「陽明叢書 国書篇 第五輯 中古和歌集」（一九七六年九月、思文閣出版）あり

(27) 陽明文庫（別置）

【マイクロ】五五―五四―五―二―四／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「さるまる大夫」／内題ナシ／「本願寺本三十六人集」（箱書）のうち

(28) 陽明文庫（近―サー―六八）

【マイクロ】五五―七〇―九―一―一〇〇／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿丸 小町 兼輔 朝忠」／内題「猿丸大夫集」〔首題〕・「猿丸」〔扉題〕／三十六人集のうち／小町集・兼輔集・朝忠集と合

(29) 神宮徴古館（三九九三）

【マイクロ】六二―二―二―一―七／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「猿丸大夫集」／内題ナシ／三十六人集のうち

(30) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七―一―一―一―一〇／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題「猿丸集 十二」／内題「猿丸大夫集」／三十六人集のうち

(31) 熊本大学附属図書館北岡文庫（三三三号赤二二二）

【マイクロ】二二―四―一―一―四―五―一―〇／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌仙家集 一」／内題「猿丸大夫集」／「歌仙家集」のうち／家持集と合

7 小野篁〔書目7・大成1-11〕

〈奥書・刊記等ナシ〉

(1) 宮内庁書陵部 (五〇一-一七九)

【マイクロ】二〇一六-七 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「小野篁集」 / 内題「小野篁集」〔扉題〕

(2) 水府明德会彰考館徳川博物館 (巳和-四)

【マイクロ】三二一九五-六 / 紙焼写真E二七四二 / 写二冊 / 外題「篁物語 全」 / 内題「篁物語」〔扉題〕

(3) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第六十九卷 承空本私家集 上」所収(二〇〇二年八月、朝日新聞社) / 写一冊 / 外題「小野篁集」 / 内題ナシ

8 小野小町〔書目8・大成1-12、13・新編増補〕

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 東京大学文学部国文学研究室 (中古一・一三-一五)

【マイクロ】四一四四-三 / 紙焼写真C三二〇二 / 写二冊 / 外題「小野小町家集 全」 / 内題「小野小町家集」〔首題〕・「小町家集」〔尾題〕

〔翻刻〕

A (一六丁ウ)

他本歌 十一首

いつとても恋しからすはあらねとも

あやしかりける秋のゆふくれ

長月のあり明の月のありつ、も

君しもまされまちこそはせめ

あさか山かけさえ見ゆる山の井の

あさくは人をおもふものは

なかあめを

なかもつ、過る月日もしらぬまに

秋のけしきに成にけるかな

春の日のうらくことをいて、み□

何わさしてかあ□はすくすと

木の間よりもり来る月の影見れば

こ、ろつくしの秋は来にけり

天つ風雲ふきはらへ久かたの

月のかくる、道まとはなん

あはれてふ事こそうたて世の中を

思ひはなれぬほたし成けり

世の中は夢かうつ、かうつ、とも

夢もしらすありてなければ

あはれてふことの業ことにおく露は

むかしをこふる涙なりけり

山里はもの、わひしき事こそあれ

世のうきよりもすみよかりけり

B (一八丁才)

又他本 五首

北相公本也

おくら山聞しともしのこゑもかな

しかならはすはやすくねな□し

別つ、見るへき人もしらぬま□

秋のけしきに成□けるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは

わする、ひまもあらまし物を

はかなしやわか身のはてよ浅みとり

野へにたな引霞とおもへは

花咲てみならぬものはわたつみの

かさしにさせるおきつしら波

小町家集終

C (巻末)

ふみかわると、せといふとしの後の

しもふり月つひたちのころ人<sup>世</sup>の

もてるをかりて其ま、写しける

深淵の屋のかたへなる

秋山のあるしか物しつ

【備考】

B「北相公」：「小相公」の誤写で小宰相のこととみられる。藤原家隆女。生年未詳、文永二年1265頃没。

(2)内閣文庫(二〇一—四三三)

【マイクロ】一九—二四四—一九／紙焼写真C五—一〇／写一冊／外題

「小町集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「小町集」／三

十六人集のうち

【翻刻】

A (八丁ウ)

他本哥

十一首

いつとてもこひしからすはあらねともあやしかりける秋の夕暮

長月の有明の月の有つ、も君しきまさはまちもこそせめ

あさかやま影さへ見ゆる山の井の浅くは人を思ふものは

なか雨を

なかもつ、すぐる月日もしらぬまに秋の気色に成にける哉  
春の日の浦くことを出て見よなにわさしてか蛸は過すと  
古今契不知  
木まよりもりくる月の影みれば心つくしの秋は来にけり

天津風雲吹はらへ久堅の月のかくる、道まとはなむ

あはれてふ事こそうたて世中を思はなれぬほたしなりけれ  
同説六曲

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ  
同説六曲

あはれてふことのは毎に置露は昔を恋るなみた也けり  
同説六曲

山里は物のさひしき事こそあれの世のうきよりは住よかりけれ  
同説六曲

B (八丁オ)

又他本

五首 小相公本

小倉山きえしともしの末もかなしかならはずはやすくねなまし

別つ、見るへき人もしらぬまに秋の気色に成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る時もあらまし物を  
所引、あはれなり

はかなしや我身の果よ浅みとり野へにたなひく霞と思へは  
後撰

花咲てみならぬ物はわたつ海の

かさしにさせる沖つ白波

【備考】

B 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

(3) 宮内庁書陵部 (五〇六一八)

【マイクロ】二〇—四五—一—二七 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「小野

小町集昔人 / 内題「小町集」 / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (一一ウ)

他本哥 十一首

いつとても恋しからずはあらねともあやしかりける秋の夕くれ  
長月の有明の月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ  
あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人を思ふ物かは  
なか雨を

なか雨を

なかもつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきになりけるかな

春の日のうらくことを出てみよ何わさしてか海士はすすくと  
草

木間よりもりくる月のかけみれば心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふことこそうたて世中を思はなれぬほたしなりけれ  
草

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことにく露は昔をこふるなみた也けり

山里はもの、わひしきことこそあれよのうきよりはすみよかりけり

B (一二丁オ)

又他本 五首 小相公本也

小倉山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし  
わかれつ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな  
かたみこそ今はあたなれこれなくはわする、時もあらまし物を  
所引、あはれなり  
はかなしや我身のはてよあさ緑のへにたなひく霞と思へは  
同つたはの

花咲てみならぬ物はわたつうみのかさしにさせる沖つしら波

【備考】

B「小相公」↓8小野小町(1)参照

(4)宮内庁書陵部(五二〇―二二)

【マイクロ】二〇―四八―二二八／紙焼写真ナシ／写二帖／外題「小町

集 廿八」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A(十六丁オ)

已上顕家三位本

B(十六丁ウ)

他家本 十八首

人しれぬわかおもふ人にあはぬよは

身さへぬるみでおもほゆるかな

まへわたりしにたれともなくてとらせし

そらをゆく月のひかりをくもるより

みてや、みにてよははてぬへき

かへしあしたに

いもはれておもひいつれとことの葉の

ちれるなけきはおもひてもなき

あやしかりけるあきのゆふくれ

あやしかりけるあきのゆふくれ

あかつきのあり明の月のありつ、も

きみしきまさはまちこそはせめ

浅香山かけさへみゆるやまの井の

あさくは人をおもふものは

あやなき事いひたる人に

うみのなかをいっているとりはみなそこを

おほつかなくはおもはさらなむ

たきの水このもとちかくなかれすは

うたかたをなとあはれとみましや

なかあめを

なかつ、すくる月日もしらぬまに

あきのけしきになりけるかな

はるの日のうらくことをいて、見よ

なにはさしてかあまはすくすと

木のまよりもりくる月のかけみれば

こ、ろつくしの秋は来にけり

あまつかせ雲ふきはらひひさかたの

月のかくる、みちまとはさむ

みやこいて、けふみかのはらいつみかは

かはかせさむみころもかせやま

世の中はゆめかうつ、かうつ、とも

ゆめともしらすありてなければ

古十八通入不知  
あはれてふことのはことをくつゆは  
むかしをこふるなみたなりけり

さるまろまち君の集なる哥

古十八通入不知  
あはれてふことこそうたてよのなかを

古十八通入不知  
おもひはなれぬほたしなりけれ

古十八通入不知  
やまさとは物さひしかることこそあれ

古十八通入不知  
よのうきよりはすみよかりけり

C (十八丁ウ)

他本 小宰相本也 八首

をくら山き、しともしのこゑもかな

しかならはすはやすくねなまし

わかれつ、見るへき人もしらぬまに

あきのけしきになりけるかな

をみなへしおほかる野へにやとりせは

古四小野文付  
あやなくあたのなをやたちなむ

古十四通入不知  
かたみこそいまはあたなれこれなくは

古十四通入不知  
わする、おとりもあらましものを

はかなしやわかみのはてよあさみとり

野へにたなひくかすみとおもへは

みし人もしられさりけりうたかたの

うきみはいさやものわすれして

はなさきてみならぬものはわたつみの

かさしにさせるおきつしらなみ  
D (巻末)

都合百二十六首内長哥一首

E (同)

小野小町

出羽国郡司女神文日六通有  
此出是是本詳

承和比人 与遍昭僧正有贈答

袖中抄 数十年在京好色也

然向本国死去後屍有八十嶋歟

俱小野者姓歟住所歟

F (同)

建長六年七月廿日重校合令九条

三位入道本畢彼本哥六十九首云

顕家三位自筆本也 安元二年十一月八日

G (同)

正應五年十二月九日令侍中詹事丞成高

書之即之校畢 藤資経

H (同)

永仁五年三月十五日於西山書写畢

承空

承空上人

寄進之

【備考】影印本『三十六人集 御所本 小町集』(一九七〇年九月、新典社)あり。

A F 「顕家三位」：藤原顕家。仁平三年1153～貞応二年1223。建仁元年1201叙  
従三位、建保三年1215出家。

C 「小宰相」↓8小野小町(1)参照

F 「九条三位入道」：藤原知家。寿永元年1182～正嘉二年1258。嘉禎四年1238  
出家。

G 「藤資経」↓4大伴家持(1)参照

H 「承空」↓4大伴家持(16)参照

(5) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二二—三〇—二二八／紙焼写真C二二八七／写一帖／外題「哥  
仙家集高松宮家本」／内題「小町集」／「哥仙家集」のうち／高光  
集・友則集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】

A (二五丁ウ)

他本哥 十一首

いととても恋しからすはあらね共あやしかりけり秋の夕暮

長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人を思ふものは

なかあめを

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出てみよ何わざしてかあまはすくすと  
木間がよりもりくる月のかけみれば心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふことこそうたて世中を思ひはなれぬほたし也けれ

世中は夢かうつ、かうつ、共夢共しらす有てなければ

哀がてふことの葉ことにをく露はむかしをこふる涙也けり

山さとは物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (二六丁オ)

又他本 五首 小相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらしものを

はかなしや我身のはてよあさみとりのへつるほへのにたなく霞と思へは

はなさきてみならぬものはわたつうみのかさしにさせるおきつしら波

【備考】

B 「小相公」↓8小野小町(1)参照

(6) 長野市旧真田家本(二〇)

【マイクロ】二八—二二—二二八／紙焼写真C九七一／写一冊／外題ナシ

／内題「小町集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

A (二〇丁オ)

他本哥 十一首

いつとてもこひしからすはあらねともあやしかりける秋の夕暮  
九月のあり明月のありつゝも君しもまたは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつゝ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出てみよなにわさしてかあまはすくすと

木の間よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はききにけり

天津風雲ふきはらへ久方の月のかくるゝみちまとはなん

哀てふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたし也けれ

世中は夢かうつゝ、かうつゝとも夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことをく露は昔をこふる涙也けり

山里は物のわひしき事こそあれよのうきよりは住よかりけり

B (一一丁オ)

又他本 五首 小相公本也

小倉山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし

わかれつゝ、見るへき人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘るゝ時もあらまし物を

はかなしや我身の果よあさみとりのへにたなひく霞と思へは

花咲てみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつしら浪

【備考】

B 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1)参照

(7)神宮文庫(三〇/一一三)

【マイクロ】三四—三〇—三／紙焼写真C三六／写一冊／外題「小野小町  
集 靴」／内題「小野小町集」

【翻刻】

A (一〇丁オ)

他家本

暁のあり明の月のありつゝ、もきみしきまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつゝ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出て見よなにわさしてかあまはすくすと

木の間よりもりくる月の影みれは心つくしのあきはききにけり

天つ風雲吹はらへ久かたの月のかくるゝみちまとはさむ

宮こ出てけふみかの原泉川かは風さむみころもかせ山

おほかたの秋くることに我身こそかなしき物におもひしりぬれ

世中は夢かうつゝ、かうつゝとも夢ともしらす有てなければ

あはれてふことのはことをく露は昔をこふる涙也けり

B (一〇丁ウ)

猿丸まうちきみの集なる哥

哀てふことこそうたて世中をおもひはなれぬほたし成けれ

山里はものゝ、さひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

C (同)

他本 —— 依不易不重也

をくら山きえしともしの聲もかな

やすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

いにし小野のよしきとあり

女郎花おほかる野へにやとりせはあやなくあたの名をやたちな  
かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらまし物を

はかなしや吾身のはてよあさみとり野へにたなひく霞とおもへは

見し人もしられざりけりうたかたの要身はいさや物忘れして

花さきて見ならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつしらなみ

D (巻末・奉納印)

天明四年甲辰八月吉且奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

D 「村井古巖敬義」 ↓ 2 柿本人麻呂(6)参照

(8) 神宮文庫 (三〇二〇四)

【マイクロ】三四—三三一—一〇—八／紙焼写真C四六四九／写一冊／外

題「小野小町 坤<sup>全</sup>」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

此集三條新黄門<sup>火録</sup>所筆也去十一日

送之今日申刻到来了

慶長十二年四月十六日

也足子

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉且奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「三條新黄門実條卿」：慶長十一年1606〜慶長十八年1613まで権中納言↓

2 柿本人麻呂(9)も参照

「也足子」：中院通勝↓3 山辺赤人(4)参照

B 「村井古巖敬義」 ↓ 2 柿本人麻呂(6)参照

(9) 名古屋市蓬左文庫 (一〇六一三七)

【マイクロ】四八—一—一—二三／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「小

町集」／内題ナシ／三十六人」のうち

【翻刻】三十六人集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(8)A参照

(10) 岩国徴古館 (二八一二四)

【マイクロ】四九—一八—九／紙焼写真C三〇七〇／写一冊／外題「小野

小町家集<sup>下</sup>」／内題「小野小町家集」(首題)・「小野小町家集

(下)」(扉題)・「小町家集上(下)」(尾題)

【翻刻】

A (上巻一九丁ウ)

他本歌 十一首

<sup>古</sup>いつとでも恋しからずはあらねとも

あやしかりける秋の夕ゆふくれ

長月のあり明の月のありつゝも

きみしもまされ待こそはせめ

あさか山かけさへ見ゆる山の井の

あさくは人をおもふものは

なかあめを

なかめつゝ過る月日もしらぬまに

秋のけしきに成にけるかな

春の日のうらくことをいて、みよ

何わさしてかあまはすくすと

<sup>古</sup>木間よりもりくる月のかけみれは

こゝろつくしの秋はきにけり

天津風雲吹はらへひさかたの

月のかくる、道まとはなむ

<sup>古</sup>あはれてふ事こそうたて世中を

思ひはなれぬほたしなりけれ

<sup>古</sup>世のなかは夢かうつゝかうつゝとも

夢ともしらすありてなければ

<sup>古</sup>あはれてふことの葉ことにをく露は

むかしをこふるなみたなりけり

<sup>古</sup>山里はものゝわひしき事こそあれ

世のうきよりもすみよかりけり

B (上巻二一丁オ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかな

しかならずはやすくねなまし

別つゝみるへき人もしらぬまに

秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは

わするゝときもあらまじものを

はかなしやわか身のはてよあざみとり

野へにたなひく霞とおもへは

花さきてみならぬものはわたつうみの

かさしにさせるおきつしら波

C (下巻末)

安政六年巳未ノ八月吉日

【備考】

B 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1)参照

(11) 陽明文庫

【マイクロ】五五―四四―八／紙焼写真C二六四八／写一帖／外題ナシ／

内題「小町集」

【翻刻】

A (一八丁ウ)

他本歌 十一首

いとてか<sup>か</sup>こひしからすはあらねとも

あやしかりけり秋の夕暮

なかつきの有明の月のありつゝも

君しもまさはまちこそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井の

あさくは人をおもふものかは

なかつ雨を

なかつつゝ過るつき日もしらぬまに

秋のけしきになりけるかな

春の日のうらくことをていて、みよ

なにわさしてか螢はすくすと

木間<sup>木</sup>よりもりくる月の影みれば

こゝろつくしの秋はきにけり

天津風くも吹はらへひさかたの

つきのかくる、道まとはなむ

あはれてふことこそうたて世の中を

おもひはなれぬほたし成けれ

よのなかは夢かうつゝ、かうつゝとも

B (二〇丁ウ)

又他本 五首

小倉やまきえしともしのこゑもかな

しかならはずややすくねなまし

別れつゝ見るへき人もしらぬまに

あきのけしきになりける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは

わするゝときもあらましものを

はかなしや我身のはてやあさみとり

つゐには野への露とおもへは

花さきてみならぬものはわたつ海の

かさしに

させる

沖津しら

波

(12) 陽明文庫(近一サー六八)

【マイクロ】五五―七〇九―一一―紙焼写真ナシ／写一冊／外題「猿丸 小町 兼輔 朝忠」／内題「小町集」〔首題〕・「小町」〔扉題〕／三十六人集のうち／猿丸集・兼輔集・朝忠集と合

【翻刻】

A (一五丁オ)

他本哥 十一首

いつとても恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕くれ  
なか月の有明月のありつゝも君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の中中のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつゝ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間木間よりもりくる月の影みれは心つくしの秋は来にけり

あまつかせ雲吹はらへ久かたの月のかくるゝみちまとはなん

あはれてふことこそうたて世中を思ひはなれぬほたし也けれ

世中は夢かうつゝ、かうつゝとも夢ともしらす有てなければ

あはれてふことのはことをく露は昔をこふる涙なりけり

山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (一五丁ウ)

又他本 五首 小相公本也

をくら山さえしともしのこゑも哉しかならはずはやすくねなまし

わかれつゝ、みる・人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘るゝ時もあらましもを  
はかなしや我身のはてよあさみとりのへはつとほのへにたなひく霞と思へは  
花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつしらなみ

C (小町首集末尾)

一校了

【備考】

B 「小相公」↓8小野小町(1)参照

(13) 陽明文庫(近一二二二)

【マイクロ】五五―七二五―二二―紙焼写真ナシ／写一冊／外題「小野小町集」／内題「小町集」〔首題〕・「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓2柿本人麻呂(9)A参照

A (筆者目録)

小町 水無瀬中納言氏名

B (九丁オ)

他本哥 十一首

いつとてもこひしからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮  
長月の有明の月のありつゝも君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なか雨を

なかもつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうら／＼（古今）ことを出てみよ何わさしてか海士はすすくと

木間（古今）よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

哀（古今）てふ事こそうたてよの中を思はなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことをく露は昔をこふる涙也けり

山里はもの、わひしき事こそあれよのうきよりはすみよかりけり

C (九丁ウ)

又他本 五首 小相公本也

小倉山きえしともしの聲もかなしかならはずはやすくねなまし

別つ、みるへき人も知らぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくはわする、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさ（古今）緑野へ（古今）にたなひく霞と思へは

花咲（古今）てみならぬ物はわたつうみのかさしにさせる沖つしら波

【備考】

A 「水無瀬中納言氏成」 ↓ 2 柿本人麻呂(9)参照

B 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1)参照

(14) 神宮徴古館 (三九九三)

【マイクロ】六二一一一一九／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「小

野小町集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (九丁ウ)

他花哥（古今）

十一首

いつとても恋しからずはあらね共あやしかりけり秋の夕くれ

なか月の有明の月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山影さへみゆる山の井のあさくは人を思ふ物かは

なかもめ

なかもつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうら／＼（古今）ことを出てみよあわさしてかあまはすすくと

木間（古今）よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつかせ雲吹はらへ久堅の月のかくる、道まとはなん

哀（古今）てふことこそうたて世中を思ひはなれぬほたし成けれ

世間は夢かうつ、かうつ、共夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことにおく露は昔をこふる涙なりけり

山里は物のさひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (一〇丁オ)

又他本 五首 小相公切也

をくら山きえしともしのごゑも哉しかならはずはやすくねなまし

別つ、みる人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらましものを

はかなしや我身のはてにあさみどりのへにたな引霞と思へは

花（古今）さきて見ならぬ物はわたつうみのかさしにさせる奥津白浪

【備考】

B 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1)参照

(15) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七一―一一二／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題

「小町集 十二」／内題「小町集」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (一〇丁ウ)

他本哥

十一首

いつとてもこひしからすはあらねともあやしかりける秋の夕暮

なか月の在明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへ見ゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なか雨を

なかつ、過る月日もしらぬ間に秋のけしきに成にける哉

春の日のうら／＼ことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月のかけみれば心つくしの秋はきにけり

あまつかせ雲ふきはらへ久かたの月のかくる、みちまとはなん

あはれてふことこそうたて世中を思ひはなれぬほたし成けれ

世中は夢か現かうつ、とも夢ともしらすありてなけれは

あはれてふことの葉ことにをく露は昔をこふる涙なりけり

山里はもの、わひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (一一丁ウ)

又他本 五首 小相公本也

小倉山きへしともしのすゑもかなしかならはずはやすくねなまし  
わかれつ、見るへき人もしらぬ間に秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくはわする、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさみとり野へにたなひく籠とおもへは

花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつしら波

【備考】

B 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1)参照

(16) 熊本大学附属図書館北岡文庫(三三三号赤二二二)

【マイクロ】二二四―一一五―一七／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌

仙家集」／内題「小町集」／「歌仙家集」のうち／忠岑集・頼基集と合

【翻刻】

A (一〇丁オ)

他本哥 十一首

いつとてもこひしからすはあらねともあやしかりける秋の夕ぐれ

長月の有明の月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかつ、過る月日もしらぬ間に秋のけしきに成にける哉

春の日のうら／＼ことを出てみよなにわさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月の影みれば心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなむ

<sup>古</sup>あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

<sup>中</sup>世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ

<sup>阿</sup>あはれてふことの葉ことにをく露は昔をこふる涙なりけり

<sup>阿</sup>山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑも哉しかならはすはやすくねなまし  
別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、ときもあらましものを

<sup>所引式なり</sup>はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなひく霞と思へは

花さきてみならぬ物はわたつみのかさしにさせるおきつしらなみ

【備考】

B 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

(17) 京都女子大学図書館吉沢文庫 (YW九一・二〇八K—二)

【マイクロ】二四二—五九—二二／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥

仙家集（高光、友則、小町）／内題「小町集」／「哥仙家集」のうち／高光

集・友則集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】歌仙家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(14) F S も参照

A (小町集巻頭書入)

古本六十九首 且本百首 古本比刊本卅三首 少四首 多且本比刊本一首 多刊

本九十九首／末他本哥十／六首 且刊／本并有之古／本無之／古本次第

大／異刊 且全／同補 哥 且／古合 五首 別／附／後得一本 其／本體 裁小／

而筆迹 頗／古即一校了／次第 与 刊大同／以小本名之／具注 行 傍／又一

本 与 刊大／同 而 写 句 之／間 小 異 卷 末／他 本 哥 又 与／小 本 大 同 小 異／假

以 甲 名 之

B (二〇丁オ)

他本哥 十一首

<sup>古</sup>いつとても恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮  
長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

<sup>古</sup>春の日のうらくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月の影みれば心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

<sup>古</sup>あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

<sup>中</sup>世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ

<sup>阿</sup>あはれてふことの葉ことにをく露はむかしをこふる涙なりけり

<sup>阿</sup>山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

C (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかなしかならはすはやすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなひく霞と思へは

花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

D (小町集卷末書入)

都合百二十六首内長哥一首他人哥一首歌

小野小町出羽郡司女承和比人歌遍昭僧正有贈答

建長六年正月十七日重校合九條三位入道本了彼本

哥六十九首云々顯家本三位自筆本也

安元二十一日 校合了 廣祐 (花押)

E (十二冊目頼基集卷末書入)

文化五年七月廿三日校合畢 (花押)

F (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡粹

G (十五冊目中務集卷末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢 (花押)

【備考】

C 「北相公」 ↓ 8 小野小町 (1) 参照

D 「九條三位入道」 「顯家」 ↓ 8 小野小町 (4) 参照

「廣祐」 … 未詳。

E G 「花押」 … 村田春門 ↓ 2 柿本人麻呂 (14) 参照

(18) 大和文華館 (三一三九二五)

「マイクロ」二五七—一五二—一—二二 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題

「哥仙集」 / 内題「小町集」 / 「哥仙集」のうち / 敏行集・素性集・興

風集・遍昭集・公忠集・清正集・友則集・是則集・信明集・猿丸集・業

平集・頼基集・宗于集・敦忠集・兼盛集・仲文集・忠岑集と合

【翻刻】歌仙集全体 ↓ 6 猿丸大夫 (9) A 参照

(19) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七—一五—二二)

「マイクロ」三三二—六八—一—二八 / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題「哥

仙家集高光 友則 小町忠岑 頼基 十二」 / 内題「小町集」 / 「哥仙

歌集」のうち / 高光集、友則集、忠岑集、頼基集と合

【翻刻】

A (小町集卷頭書入)

古本六十九首宜本百首古本比刊本卅三首少四首多宜本比刊本一首多刊

本九十九首 / 未他本哥十六首 / 宜刊本并有之 / 古本無之 / 古本次第大

異刊 / 宜全同補哥寫宜古 / 合五首附 / 後得一本其本體 / 裁小而筆迹頗

/ 古即一校了次第 / 与刊大同以小本名 / 之具注行傍 / 又一本与刊大同

而 / 字句之間小異 / 卷末他本哥 / 又与小本大同小 / 異假以甲名之

B (他本哥 十一首) / 前二書入

已上顯家三位本

甲此所二三首アリ

人しれぬわかおもふ人にあはぬよは身さへぬるみておもふゆるかな

まへわたりしにたれともなくてとらせし

空を行月の光を雲井よりみてや、みにてよは、てぬへき

かへしあしたにありしにまた

空はれておもひ出れとことのはのちれるなけきはおもひてもなき

章云右三首皆複出也以同異駁雜不注前

C (二〇丁オ)

他本哥 十一首

いつとでも恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮

長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなけれは

あはれてふことの葉ことにをく露はむかしをこふる涙なりけり

山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

D (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山さえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなく霞と思へは

花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

E (小町集卷末書入)

甲奥云

都合百二十六首内長哥一首他人哥一首歟

小野小町出羽郡司女承和比人与遍昭僧正有贈答

建長六年正月十七日重校合九條三位入道本了彼本

哥六十九首云々頭家三位自筆本也

安永二十一日、校合了

廣祐〔花押〕

F (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

昔林中野道也繡梓

【備考】

B E 「頭家三位」 E 「九條三位入道」 ↓ 8 小野小町(4) 参照

D 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

E 「廣祐」 ↓ 8 小野小町(17) 参照

(20) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C-1/三四-二六)

【マイクロ】三三三-二二-一〇 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「小

町集 二十八 / 内題「小町集」〔首題〕・「小町家集」〔扉題〕・「本願寺

本三十六家集」〔目録題〕 / 「本願寺本三十六家集」のうち

【翻刻】本願寺本三十六家集全体 ↓ 柿本人麻呂 (17) A B 参照

A (人丸集巻頭)

小町

五十八枚 白四枚々

B (四八丁ウ)

他本哥 十一首

いつとてもこひしからすは

あらねとも

あやしかりける秋のゆふくれ

なかつきの有明の月のありつ、

も君しもまさはまちこそはせめ

あさかやまかけさへ

みゆる山の井の

あさくはひとを

おもふものは

なか雨を

なかめつ、すくる月日も

しらぬまに

あきのけしきなりに

けるかな

はるの日のうらくことを

いて、見よ

なにわさしてかあまは

すくとも

このまよりもりくる

月のかけ

みれば

こゝろつくしの

あきはきにけり

あまつかせくもふきはらへ

ひさかたのつきの

かくる、

みちまとはなむ

あはれてふことこそうたて

よのなかを

おもひはなれぬほたし

なりけれ

世のなかはゆめか

うつ、か

うつ、とも

夢ともしらす

ありてなければ

あはれてふことのはことに

をくつゆは

むかしをこふる

なみたなりけり

やまさとは

ものゝわひしきこと

こそあれ

よのうきよりは

すみよかりけり

C (五二丁ウ)

又他本 五首 小相公本也

をくらやまさえしともしの

こゑもかな

しかならはすは

やすくねなまし

わかれつゝみるへき

人も

しらぬまに

あきの

けしきになり

けるかな

かたみこそいまは

あたなれ

これなくは

わするゝときも

あらましものを

はかなしやわかみの

はてよ

あみとりのへに

たなひく

かすみとおもへは

はなさきてみならぬ

ものは

わたつうみの

かさし

にさせる

おきつ

しら

なみ

【備考】

C 「小相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

(21) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七〇)

【マイクロ】 三三三—二九— —二八 / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題

「哥仙家集高光 友則 小町忠岑 頼基 十二」／内題「小町集」／  
「歌仙歌集」のうち／高光集・友則集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】

A (二〇丁オ)

他本哥 十一首

い<sup>ホ</sup>つとても恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮  
長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間<sup>ホ</sup>よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ

あはれてふことの葉ことにをく露はむかしをこふる涙なりけり

山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

B (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山さえしともしのこゑもかなしかならはすはやすくねなまし  
別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなひく霞と思へは  
花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

C (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也續粹

D (刊記右傍書入)

此書入は村田翁自筆なり 真頼

【備考】

B 「北相公」↓8 小野小町(1)参照

D 「村田翁」「真頼」↓2 柿本人麻呂(18)参照

(22) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三三―二九五―二―一／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「小町集」／内題「小町集」／三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (九丁オ)

他本哥 十一首

い<sup>ホ</sup>つとてもこひしからすはあらね共あやしかりける秋の夕暮  
長月の有明の月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なか雨を

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

春の日のうらくことを出てみよ何わさしてか海士はすくすと  
木間木間よりもりくる月の影みれば心つくしの秋はきにけり

あまつかせ雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

哀哀てふ事こそうたてよの中を思はなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことにをく露は昔をこふる涙也けり

山里はもの、わひしき事こそあれ世のうきよりはすみよかりけり

B (九丁ウ)

又他本 五首 小相公本也

小倉山きえしともしの聲もかなしかならはずはやくねなまし

別つ、みるへき人も知らぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくはわする、時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさ緑野緑野へにたなひく霞霞と思へは

花咲花咲てみならぬ物はわたつうみのかさしにさせる沖つしら波

C (巻末)

一校了

【備考】

B 「小相公」↓8小野小町(1)参照

(23) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三一四―一―二八／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題

「哥仙家集 四」／内題「小町集」／「哥仙家集」のうち／赤人集・暹  
昭集・源順集・元輔集・朝忠集・高光集・友則集・小町集・忠岑集・頼  
基集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19)F、Hも参照

A (小町集巻頭)

○古本六十九首宜本百首古本比刊本卅三首少四首多宜本比刊本一首多

刊本／九十九首未他本哥十六首宜刊本并有之古本無之古本次第大異刊

宜全同補哥／宜古合五首別附

○後得一本其本體裁小而筆迹頗古即一校了次第与刊大同姑以小本名之

具注行傍

○又一本与刊大同而字句之間小異卷末他本哥又与小本大同小異假以甲

名之

B 「他本哥 十一首」ノ前二書入

已上頭家三位本本

甲此所二三首アリ

人しれぬわがおもふ人にあはぬよは身さへぬるみておもほゆる哉

まへわたりしにたれともなくてとらせし

空を行月の光を雲井より見でや、みにてよは、てぬべき

かへしあしたにありしにまた

空はれておもひ出れどことのはのちれるなけきはおもひてもなき

章云右三首皆複出也以同異駁雜不注前

C (一一七丁オ)

他本哥 十一首

いつとても恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮  
長月の有明月のありつゝも君しもまさば待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは  
なかあめを

なかつゝ過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうら／＼ことを出てみよ何わざしかあまはずぐすと

木間よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まどはなん

あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほだしなりけれ

世中は夢かうつゝかうつゝとも夢もしらず有てなければ

あはれてふことの葉ごとにをく露はむかしをこふる涙なりけれ

山里は物のわびしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

D (一一七丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし

別つゝみるべき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあだなれこれなくは忘るゝ時もあらまし物を

はかなしや我身のはてよあさみとりのべにたなびく霞と思へば

花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

E (同)

甲奥云都合百二十六首内長哥一首他人哥一首歟

小野小町出羽郡司女承和比人与遍昭僧正有贈答

建長六年正月十七日重校合九條三位入道本了彼本

哥六十九首、顯家三位自筆本也

安元二十一日、校合了 廣祐《花押》

F (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長《花押》

【備考】

B. E. 「顯家三位」 E. 「九條三位入道」 ↓ 8 小野小町(4) 参照

D. 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

「廣祐」 ↓ 8 小野小町(17) 参照

F. 「加茂季鷹」 「藤原濱臣」 「長《花押》」 ↓ 2 柿本人麻呂(19) 参照

(24) 中田光子氏

【マイクロ】 ナ三―九―九―六 / 紙焼写真 C 六〇九四 / 写一冊 / 外題ナシ

／内題「小野小町家集」 / 清少納言枕草紙裝束抄・定家卿五色和歌・女三十六歌仙・集外三十六歌撰・業平歌問答と合

【翻刻】

A (二二丁オ)

他本哥 十一首

いつとても恋しからすはあらねともあやしかりける秋の夕ぐれ

長月の有明の月の有つゝも君しもまされ待こそはせめ

あさか山かけさへ見ゆる山の井のあさくは人を思ふものかは

なか雨を

なかもつ、過る月日もしらぬ間に秋のけしきに成にける哉

はるの日のうらくことをいて、見よ何わさしてかあまはすくすと

木の間よりもりくる月のかけ見れは心つくしの秋はきにけり

天津風雲吹はらへ久かたの月のかくる、みちまとはなん

あはれてふことこそうたて世中を思はなれぬほたし成けれ

世中は夢か現かうつ、とも夢ともしらすありてなければ

あはれてふことのはことにおく露はむかしをこふる泪なりけり

山里はもの、わひしき事こそあれよのうきよりはすみよかりけり

B (二二丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

小くら山きえしともしのこゑもかなしかならはすはやすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

かたみこそ今はあたなれこれなくはわする、時もあらましものを

はかなしやわか身のはてやあさみとり野へに柵引つるには野への籠とおもへは

花さきてみならぬものはわたつ海のかさしにさせるおきつ白波

C (業平間答歌末尾)

于時享和三癸亥九月上旬日

岡内蔵之助 謹書

【備考】

B「北相公」↓8小野小町(1)参照

C「岡内蔵之助」…未詳。

(25) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十卷 平安私家集 七」所収(一九九九

年一二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「小町」 / 内題「をの、こまち

かしふ」(首題)・「小野小町集」(扉題)

【翻刻】

A (巻末)

権中納言殿

【備考】

A「権中納言殿」…時雨亭叢書解題によると、該当するのは平清盛(応

保二年1162)長寛三年1165任権中納言、以下同)・平重盛(永万二年1166)

仁安二年1167)・平知盛(嘉応二年1170)・藤原頼長(長寛二

年1164)仁安二年1167)・藤原実守(寿永元年1182)元暦二年1185)・藤原実家

(元暦二年1185)文治三年1187)。

(26) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十一卷 承空本私家集 下」所収(二〇

〇七年六月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「小野小町集」 / 内題ナシ

【翻刻】

A (二二才)

已上頭家三位本

B (十二丁才)

他家本 十八首

古下 人シレヌ我オモフ人ニアハヌ夜ハ

身サヘヌルミテオモホユルカナ

マヘワタリシニタレトモナクテトラ

七シ

ソラヲユク月ノヒカリヲクモ半ヨリ

ミテヤ、ミニテヨハ、テヌヘキ

カヘシアシタニ

イモハレテオモヒイツレトコトノハノ

チレルナケキハオモヒテモナキ

誤入不知 イツトテモコヒシカラスハアラネトモ

アキノユフス公ヤシカケ アヤシカリケルアキノユフクレ

アカ月ノアリアケノ月ノアリツ、モ

キミシキマサハマチコソハセメ

アサカ山カケサヘミユル山ノ井ノ

万葉上六 采女歌 皇主御 アサクハ人ヲオモフモノカハ

アヤナキ事イヒタル人ニ

ウミノナカライテイルトリハミナソコヲ

オホツカナクハオモハサラナン

タキノミツコノモトチカクナカレスハ

ウタカタヲナソアハレトミマシヤ

ナカ雨ヲ

ナカメツ、スタイル月日モシラヌマニ

アキノケシキニナリニケルカナ

(マ) ルノヒノウラノコトライテ、ミヨ

歌之集在之 ナニハサシテカアマハスクスト

コノマヨリモリクル月ノカケミレハ

古 誤入不知 コ、ロツクシノ秋ハキニケリ

アマツカセ雲フキハラヘヒサカタノ

月ノカクル、ミチマトハサン

ミヤコイテ、ケフミカノハライツミカハ

カハカセサムミコロモカセヤマ

古 誤入不知 ヨノナカハユメカウツ、カウツ、トモ

ユメトモシラスアリテナケレハ

アハレテフコトノハコトニヲクツユハ

古 誤入不知 ムカシラコフルナミタナリケリ

サルマロマチ君ノ集ナル哥

アハレテフコトコソウタテヨノ中ヲ

古 誤入不知 思ハナ レヌホタシナリケレ

古 誤入不知 ヤマサトハ物サヒシカル事コソアレ

古 誤入不知 ヨノウキヨリハスミヨカリケリ

C (十三丁ウ)

他本 小宰相本也 八首

ヲクラ山キ、シトモシノコエモカナ

シカナラハスハヤスクネナマシ

ワカレツ、ミルヘキ人モシラヌマニ

アキノケシキニナリニケルカナ

ヲミナヘシオホカルノヘニヤトリセハ

アヤナクアタノナヲヤタチナム

カタミコソイマハアタナレコレナクハ

ワスル、オリモアラマシモノヲ

ハカナシヤワカ身ノハテヨアサミトリ

ノヘニタナヒクカスミトオモヘハ

見人モシラレサリケリウタカタノ

ウキ身ハイサヤモノワスレシテ

ハナサキテミナラヌモノハワタツミノ

カサシニサセルオキツシラナミ

D (一四才)

都合百二十六首内長歌

一首

E (卷末)

小野小町

出羽国郡司女仲実日六娘若  
此由是處去詳

承和比人 与遍昭僧正有贈答

袖中抄に数十年在京好色也

然向本国死去後屍有八十嶋歎

俱小野者姓歎住所歎

F (同)

本云

建長六年七月廿日重校合于九

条三位入道本了彼本哥六十

九首云々 顕家三位自筆

本也 安元二年十一月八日云々

G (同)

正応五年十二月九日令侍中

詹事丞藤資書之即之校了

藤資経

H (同)

永仁五年三月十五日於西山房

書写了 承空

I (同)

承空上人

寄進之

【備考】

AF「顕家三位」F「九條三位入道」↓8小野小町(4)参照

C「小宰相」↓8小野小町(1)参照

G「藤資経」↓4大伴家持(1)参照

H I 「承空」 ↓ 4 大伴家持(16) 参照

(27) 国文学研究資料館 (ア二一三一―二)

【原本】刊一冊 / 外題「哥仙家集」巻末 (合点は朱) / 内題「小町集」 / 「哥仙家集」のうち / 高光集・友則集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】

A (小町集巻頭書入)

古本六十九首家本古本 古本比刊卅三首少四首多家本比刊本一首多  
刊本九十九首末二他本哥十六首宜刊本并有之古本無之

B (同)

次第古本大異 / 刊本家本同 / 補哥古家合 / 五首別附 / 後得一本其本 / 鉢裁小而筆 / 跡頗古即一校 / 了次第与刊大 / 同姑以小本名 / 之具注行  
傍 / 又一本与刊大同 / 而字句之間小 / 異卷末他本 / 哥又与小本大 / 同  
小異假以甲 / 本名之

季鷹案校本タト / ヘハ此下ノ題ヲ甲 / 本ニハあしたに有 / しに又かヘ  
しなど / 有類意たかはぬ / は不記すへて / しかり

C (他本哥 十一首) / 前二朱書入)

已上顯家三位本<sup>小</sup>

甲此所二三首アリ

人しれぬ我思ふ人にあはぬ夜は身さへぬるみておもほゆる哉

うへわたりしにたれともなくてとらせし

空を行月の光を雲井より見てや、みにて世ははてぬべき

かへしあしたに有しに又

雲はれて思出れとことのはのちれるなげきは思ひ出もなき

按右三首皆複出也以同異駁雜不注前

D (二〇丁オ)

他本哥 十一首

いつとても恋しからすはあらねともあやしかりけり秋の夕暮  
長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかくめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月の影みれば心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ

あはれてふことこの葉ことにをく露はむかしをこふる涙なりけり

山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

E (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらまし物を

所収文あり  
はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなひく霞と思へは  
花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

F (小町集末尾朱書入)

甲奥云云都合百廿六首内長哥一首他合哥一首歟

小野小町 出羽郡司 承和比人与遍昭僧正有贈答

建長六年正月十七日重校合九条三位入道本了彼哥六十九首云々

頭家三位自筆本也

安元二十一日云々 校合了 廣祐〔花押〕

G (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

H (刊記後書入)

以大坂江田氏古本<sup>#</sup>家本一校了

平入道法橋

明和第七月四日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐権守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九<sup>庚</sup>三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

【備考】

C F 「頭家三位」 E 「九條三位入道」 ↓ 8 小野小町(4) 参照

E 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

F 「廣祐」 ↓ 8 小野小町(17) 参照

H 「平入道法橋兼誼」「菟道上林政義」 ↓ 2 柿本人麻呂(24) 参照

「甲斐権守賀茂季鷹」 ↓ 2 柿本人麻呂(19) 参照

(28) 国文学研究資料館 (ア二一五一一二)

【原本】刊一冊／外題「<sup>高友町</sup>北相公」(朱書)／内題「小町集」／「歌仙家集」のうち／高光集・友則集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】

A (小町集巻頭書入)

古本六十九首 刊本九十九首 次第古本・(朱) 異 刊本宜本全同

補哥古宜・(朱) 五首別・(朱) 附

B (同)

宜本百首 古本比刊本卅三首少四首多 宜本比刊本一首多

末二他本哥十六首宜刊本并有之古本無之

C (同)

後得一本其本／體裁小而筆／迹頗古即一／校了次第／与刊大同姑以

／小本名之具注／行傍

D (同・藍書入)

又一本与刊大同而字／句ノ間小異卷末他本／哥又与小本大同小／異假

以甲本名之

E (他本哥 十一首)ノ前二書入、「甲此」以下藍筆)

已上頭家三位本<sup>ホ</sup>

甲此所二三首アリ

人しれぬ我おもふひとにあはぬよは身さへぬるみておもほゆるかな

まへわたりしにたれともなくてとらせし

空をゆく月の光を雲井よりみてや、みにてよは、てぬへき

かへしあしたにありしにまた

雲はれて思ひいづれとことのはのちれるなけきはおもひてもなき

章按右三首皆複出也以同異駁雜不注前

F (二〇丁オ)

他本哥 十一首

いつとでも恋しからずはあらねともあやしかりけり秋の夕暮

長月の有明月のありつ、も君しもまさは待こそはせめ

あさか山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふ物かは

なかあめを

なかめつ、過る月日もしらぬまに秋のけしきに成にける哉

春の日のうらくことを出てみよ何わさしてかあまはすくすと

木間よりもりくる月の影みれは心つくしの秋はきにけり

あまつ風雲吹はらへ久かたの月のかくる、道まとはなん

あはれてふ事こそうたて世中を思ひはなれぬほたしなりけれ

世中は夢かうつ、かうつ、とも夢ともしらす有てなければ

あはれてふことの葉ことにをく露はむかしをこふる涙なりけり

山里は物のわひしき事こそあれ世のうきよりは住よかりけり

G (二〇丁ウ)

又他本 五首 北相公本也

をくら山きえしともしのこゑもかなしかならはずはやすくねなまし

別つ、みるへき人もしらぬまに秋のけしきに成にけるかな

かたみこそ今はあたなれこれなくは忘る、時もあらし物を

はかなしや我身のはてよあさみとりのへにたなく霞と思へは

花さきてみならぬ物はわたつうみのかさしにさせるおきつ白波

H (小町集卷末書入)

甲奥書云

都合百二十六首内長哥一首他人・一首歟

小野小町出羽郡司女 承和比人与遍昭僧正有贈答

建長六年正月十七日重校合九條三位入道本了彼本哥六十九首

頭家三位自筆本也

安元二十一日<sup>云</sup> 校合了 廣祐〔花押〕

I (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

J (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

EH「頭家三位」E「九條三位入道」↓8小野小町(4)参照

G 「北相公」 ↓ 8 小野小町(1) 参照

H 「廣祐」 ↓ 8 小野小町(17) 参照

J 「大橋長廣」 ↓ 2 柿本人麻呂(26) 参照。

〈奥書・刊記等ナシ〉

(29) 宮内庁書陵部(五一一―二)

【マイクロ】二〇―二五―二―二 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「歌仙集」 ■ 「表紙左」 「小町集 / 兼輔集 / 敦忠集 / 高光集 / 公忠集 / 忠岑集」

(表紙中央) / 内題「小野小町集」 / 「歌仙集」のうち / 兼輔集・敦忠集・高光集・公忠集・忠岑集と合

(30) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一―九四―一―二 / 紙焼写真C六六二 / 写一冊 / 外題ナシ / 内題「小野小町集」 / 三十六人集のうち / 兼輔集・朝忠集・敦忠集・高光集・公忠集・忠岑集と合

9 在原業平【書目9・大成1―14 & 17】

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 内閣文庫(二〇―四三三)

【マイクロ】一九―一四三―五―六 / 紙焼写真C五一一〇 / 写一冊 / 外題「業平集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる) / 内題「業平集」 / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (業平集卷末)

業平朝臣集歌四十七首内不入于物歌五首有之  
歟又古今以下至于統古今令入集之卅四首編  
此家集其外伊勢物語歌多不載経披閱之

次故注之

B (同)

私二勘之書付

【備考】Bの後に十六首の歌あり。

(2) 宮内庁書陵部(五一一―二)

【マイクロ】二〇―四八―一―六 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「業平集六」 / 内題「なりひら」(見返し題) / 三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

業平朝臣

源正尹阿保四王五男  
持伊登内親王

藏人頭 從四位上左近衛中將

元慶四年五月廿八日卒五十六

(六七)

B (同)

本云寶治年中以法性寺少將雅平本書写之校合了

建長四年以三条三位入道本校合之奥書入之

建長五年四月廿日授少相本云入哥了云

他本是也

建長六年正月十七日校合九条三位入道本了

彼本哥四十七首

上輪者九条本哥也

文永十二年四月十六日以靈山本

誂同法令書了

同十七日一校了

素寂記

【備考】影印本「古典研究会叢書 私家集 集抄二」(一九六九年五月、古典研究会)あり。

B 「法性寺少將雅平」↓6 猿丸大夫(1)参照

「三条三位入道」…藤原伊成。建久五年1194

没年未詳。仁治二年1241從

三位、仁治四年1243出家。

「小相公」↓8 小野小町(2)参照

「九条三位」↓8 小野小町(4)参照

「素寂」…源孝行。承元元年1207?…永仁二年1294以降。延応二年1240出家。

(3)国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一—三〇—一—六／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥

仙家集素性 猿丸／内題「業平集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸

大夫集・家持集と合

【翻刻】

A (巻末)

本云業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今

令入集之哥卅四首偏此家集其外

伊勢物語哥多不載経披閱之次故

注之

(4)長野市旧真田家本 (二〇)

【マイクロ】二八—二—二—六／紙焼写真C九七二／写一冊／外題ナシ

／内題「業平集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2 柿本人麻呂(5)A参照

A (巻末)

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥五首有之歟

又古今以下至于続古今令入集之哥卅四首

編此家集其外伊勢物語哥多不載経披閱

之次故注之

(5) 水府明德会彭考館徳川博物館 (巳六一〇六九六一)

【マイクロ】三二―二八七―三一―紙焼写真C七〇五八／写一冊／外題

【業平家集 影刻集 西風集】／内題「業平集」〔首題〕・「業平家集」〔目録題〕／躬恒

集・興風集と合

【翻刻】

A (卷末)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥五首

有之歟又古今以下至于續古今令人集之

哥卅四首編此家集其外伊勢物語

哥多不載経披閱之次故注之

(6) 神宮文庫 (三ノ二二〇四)

【マイクロ】三四―一三四―一八／紙焼写真C七〇五八／写一冊／外題

「在原業平朝臣集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

此集舟橋式部少輔秀賢所筆也今朝遺之

色刻到来

慶長十二年卯月十四日

也足叟

B (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇大神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「舟橋式部少輔秀賢」↓2 柿本人麻呂(9)参照

「也足叟」↓3 山辺赤人(4)参照

B 「村井古巖敬義」↓2 柿本人麻呂(6)参照

(7) 名古屋市蓬左文庫 (一〇六一三七)

【マイクロ】四八―一〇―三一五／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「業平

集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2 柿本人麻呂(8)A参照

(8) 陽明文庫 (近一サー六八)

【マイクロ】五五―七〇九―一六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題

【家持 赤人 業平 遍昭 素性 友則】／内題「業平集」〔首題〕・「業平」〔扉題〕／三十六人集

のうち／家持集・赤人集・遍昭集・素性集・友則集と合

【翻刻】

A (業平集末尾)

本云 業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥五

首有之歟又古今以下至于續古今令人

集之哥卅四首偏此家集其外伊勢

物語哥多不載経披閱之次故

注之

卅四首但此家之集 其外

伊勢物語哥多不載経披

閱之次故注之

(9) 陽明文庫(近一二二二一)

【マイクロ】五五―七一五―二一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「業平朝臣集」／内題「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓2 柿本人麻呂(9) A 参照

A (筆者目録)

業平 富小路三位考

【備考】

A 「富小路三位秀直」↓2 柿本人麻呂(9) 参照

(10) 神宮徴古館(三九九三)

【マイクロ】六二―一―一―四／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「在原業平朝臣集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入

于物哥五首有之歟又古今

以下至統古今令人集之哥

(11) 東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七―一―一―七／紙焼写真C三七四八／写一冊／外題「業平集 七」／内題「業平集」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

業平朝臣集歌四十七首内不入于物歌五

首有之歟又古今以下至于續古今令人

集之歌卅四首偏此家集其外伊勢

物語歌多不載経披閱之次故注之

(12) 熊本大学附属図書館北岡文庫(三三三号赤二二二)

【マイクロ】二二四―一―四―五―一六／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌仙家集」／内題「業平集」／「哥仙家集」のうち／素性集と合

【翻刻】

A (業平集末尾)

本云

業平朝臣集歌四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今

令入集之哥卅四首編此家集其外

伊勢物語哥多不載経披閱之次注之

(13) 京都女子大学附属図書館吉沢文庫 (Y W 九一・二〇八一・二)

【マイクロ】二四二―五八一―三一六 / 紙焼写真ナシ / 刊二冊 / 外題「哥仙家集養平集」二 / 内題「業平集」 / 「哥仙家集」のうち / 素性集・猿丸集・家持集と合

【翻刻】歌仙家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂 (14) F ↓ S も参照

A (業平集巻頭書入)

古本五十八首 / 次第等大異又 / 詞書等多哥 / 数モ十五首多 / 刊且四十  
六首 / 次第全同

B (同)

大異不勝拳 / 注仍写古本一 / 通別附補十 / 五首加圈明 / 之

C (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載経披閱之次故注之

D (同書入)

文化四年六月十八日校合畢

村田並 (花押)

E (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

F (十五冊目中務集巻末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢 (花押)

【備考】

D F 「村田並 (花押)」 ↓ 2 柿本人麻呂 (14) 参照

(14) 大和文華館 (三一三九二五)

【マイクロ】二五七―一五二―一―二六 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題

「哥仙集」 / 内題「業平集」 / 「哥仙集」のうち / 敏行集・素性集・興風集・遍昭集・公忠集・清正集・友則集・小町集・是則集・信明集・興丸集・頼基集・宗子集・敦忠集・兼盛集・仲文集・忠岑集と合

【翻刻】歌仙集全体 ↓ 6 猿丸大夫 (9) A 参照

(15) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B 七二 / 一五二二)

【マイクロ】三三三―一六八一―一六 / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題「哥仙家集養平集」二 / 内題「業平集」 / 「哥仙家集」のうち / 素性集・猿丸集・家持集と合

【翻刻】

A (業平集巻頭書入)

古本五十八首次 / 第等大異又詞 / 書等多哥数モ / 十五首多刊且 / 四十

六首次第全／同

B (同)

大異不勝拳注／仍写古本一通／附補十五首加／圈以明之

C (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載經披閱之次故注之

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

(16) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C一／三四一七)

【マイクロ】三三三二一七一―一六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「業平

集 六」／内題「業平家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目錄題〕

／「本願寺本三十六人集」のうち

【翻刻】本願寺本三十六家集全体↓2柿本人麻呂(17) A B 参照

A (人丸集巻頭)

業平

廿六枚 白五枚 々

(17) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三三二一―二九五―二一六／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「業

平集」／内題「業平集」／三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (巻末)

一枚了

(18) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三一四―一―一六／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題「歌

仙家集 一」／内題「業平集」／「歌仙家集」のうち／躬恒集・素

集・猿丸大夫集・家持集・業平集・兼輔集・敦忠集・公忠集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(18) F ↓ Hも参照

A (業平集巻頭)

古本五十八首次第<sup>等</sup>大異又詞書等多哥数七十五首多刊宜四十六首

次第全同

大異不勝拳注仍写古本一通別附補十五首加圈以明之

B (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載經披閱之次故注之

C (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長〔花押〕

【備考】

C「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長〔花押〕」↓2柿本人麻呂(19)参照

(19)尊経閣文庫(函P三六九)

【紙焼写真】C一〇五四八／写一帖／外題「在中将集」／内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

本云

此集家本先年為人被借失

依為欠卷老後書之漏哥多欸

B (同)

寶徳元年十二月十五日以

定家卿真筆書写之畢

准三宮義運

C (同)

宝徳三年十一月十二日於

室町殿御前拜領之

〔花押〕

D (包書)

在中将集 一冊

実相院門主義運親筆

奥書飛鳥井栄雅筆

E (同)

本書

實相院之義運御筆

奥書判有

あすかいの栄雅筆

在中将集

酉六月求之取次津田

【備考】影印本「古典研究会叢書 私家集 集抄二」(一九六九年五月、古

典研究会)あり。

B、E「准三宮義運」：足利。至徳三年1386、没年未詳。

C「室町殿」：足利義政。永享八年1436、延徳二年1490。宝徳元年1449征夷大

將軍。

DE「飛鳥井栄雅」：飛鳥井雅親。応永二十三年1416、延徳二年1490。文明

五年1473出家、法名栄雅。

(20)東山御文庫

【影印】「古典研究会叢書 私家集 集抄二」(一九六九年五月、古典研究

会)／写一帖／外題「業平集」／内題ナシ

【翻刻】

A (卷末)

在原業平朝臣

平城天皇孫 聖正升阿保親王五男  
母伊豆内親王

天長二年月日誕生

年月日任左近將監

承和十四年正月補藏人

嘉祥二年正月七日叙從五位下

貞觀四年正月七日從五位上

同五年二月十日任左兵衛權佐

同六年三月八日任左近權少將

同七年三月九日任右馬權頭

同十一年正月七日 正五位下

同十五年正月七日 從四位下

元慶元年正月十五日 任左近中將

同年十一月廿一日 叙從四位上

同二年正月十一日 兼相模權守

同三年十月日 補藏人頭

同四年正月十一日 兼美作權守

同年同月廿八日卒

【翻刻】

A (卷末)

在原業平

平城天皇孫 聖正升阿保親王五男  
母伊豆内親王

天長二年月日誕生

年月日任左近將監

承和十四年正月補藏人

嘉祥二年正月七日叙從五位下

貞觀四年正月七日從五位上

同五年二月十日任左兵衛權佐

同六年三月八日任左近權少將

同七年三月九日任右馬權頭

同十一年正月七日正五位下

同十五年正月七日從四位下

元慶元年正月十五日任左近中將

同年十一月廿一日叙從四位上

同二年正月十一日兼相模權守

同三年十月日補藏人頭

同四年正月十一日兼美作權守

同年同月廿八日卒

B (七丁ウ右下)

墨付七枚

C (二丁才貼紙)

(21) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】冷泉家時雨亭叢書 第二十一卷 平安私家集 八 所収(二〇〇

一年二月、朝日新聞社)所収/写一帖/外題「業平朝臣集」/内題ナシ

明治卅八年七月一日

北林禪尼御筆卜決定す

奥補任傳（阿保氏）ハ相卿御筆也

業平朝臣集と合見て定也

為紀

D (七丁ウ貼紙)

此業平集

北林禪尼御筆か

明治廿四年九月廿八日注之

ため紀

同 卅八年七月一日

禪尼の御筆卜決定す

奥補任ハ相卿御筆也 (コノ三行朱)

【備考】

CD 「為紀」：冷泉為紀。安政二年 1855 ～ 明治三十八年 1905。冷泉家第二十

一代当主。

CD 「北林禪尼」：阿仏尼。生年未詳 ～ 弘安六年 1283。

CD 「相卿」：冷泉為相。弘長三年 1263 ～ 嘉暦三年 1328。

(22) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第六十九卷 承空本私家集 上」所収 (二〇

〇二年八月、朝日新聞社) / 写一冊 / 外題「業平朝臣集」 / 内題ナシ

【翻刻】

A (表紙)

一見了

B (巻末)

在原業平朝臣

平城天皇孫

四品阿保親王第五男

母伊豆内親王（天長天皇第八女）

天長二年月日誕生

同三年賜姓在原朝臣

承和十四年正月日

補藏人（廿三）左近将監

嘉祥三年正月七

叙従五位下（廿六）

貞觀四年三月七日

叙従五位上（廿八）

同五年二月十一日

任左兵衛権佐

同六年三月廿八日

右近権少将

同七年三月九日

左馬頭

同十一年三月七日

正五位下

同十四年五月十七日

勅向鴻臚館問渤海客

同十五年正月七日

從四位下四十九

元慶元年正月日

右近中將五十三

同十一月廿一日

從四位下上七

同二年正月十一日

任相模權守

同三年十月日

補藏人頭五十五

同四年正月十一日

遷任美作權守

同 五月廿八日五

卒亡五十六

C (同)

承空上人

寄進之

D (同)

永仁六年五月廿八日

書写了

【備考】

C 「承空上人」↓4大伴家持(16)参照

(23) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十二卷 素寂本私家集 西山本私家集」所収(二〇〇四年二月、朝日新聞社)／写一冊／外題「業平朝臣集」／内題「なりひら」〔見返し題〕

【翻刻】

A (卷末)

業平朝臣

卿正尹朝臣位上五男 時伊豆内四王

藏人頭 從四位上 左近衛中將

元慶四年五月廿八日卒五十六

六(三)

B (同)

本云寶治年中以法性寺少將

雅平本書写之校合了

建長四年以三条三位入道本

校合之與書入之

建長五年四月廿日授少相公小

本書入歌了云他本是也

建長六年正月十七日校合九条

三位入道本了彼本哥四十七首

上輪者九条本哥也

文永十二年四月十六日以靈山本

訛同法令書了

同十七日一校了

素寂記

【備考】

B 「法性寺少將雅平」↓6 猿丸大夫(1)参照

「三条三位入道」「素寂」↓9 在原業平(2)参照

「小相公」↓8 小野小町(1)参照

「九条三位入道」↓8 小野小町(4)参照

(24) 國文学研究資料館(ア二―三―二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集素性 猿丸 二」(合点は朱)／内題「業平集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸集・家持集と合

【翻刻】

A (業平集巻頭書入)

古本五十八首次第大異又詞書等甚多哥數モ十五首 刊家本四十六首次

第全同／

B (同)

大異不勝拳／注何写古本／一通別附／補十五首加／圈以明／續本補二

同シ／聊ノ違ハ補ニ／シルス

C (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載經披閱之次故注之

D (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

E (刊記後書入)

以大坂江田氏古本家本一校了

平入道法橋

明和第七四月六日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐權守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九庚三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

【備考】

E 「平入道法橋兼誼」「菟道上林政義」↓2 柿本人麻呂(24)参照

「甲斐權守賀茂季鷹」↓2 柿本人麻呂(19)参照

(25) 国文学研究資料館 (ア二一四一二)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集素性集 猿丸集」／内題「業平集」／「哥仙家集」のうち／素性集・猿丸集・家持集と合

【翻刻】

A (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載経披閱之次故注之

B (同・朱書入)

以一古本校合了

C (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

(26) 国文学研究資料館 (ア二一五一二)

【原本】刊一冊／外題「素性集 猿丸集」(朱書)／内題「業平集」／「歌仙家集」のうち／素性集・猿丸集・家持集と合

【翻刻】

A (業平集巻頭書入)

古本五十八首／次第等大異又／詞書等甚多／哥数七十五首／多／刊互

四十六首／次第全同／大異不勝挙注／仍写古本一通／別附／補十五首加圈／以明之

B (業平集末尾)

本云

業平朝臣集哥四十七首内不入于物哥

五首有之歟又古今以下至于續古今令

入集之哥卅四首編此家集其外伊勢

物語哥多不載経披閱之次故注之

C (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

D (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

D 「大橋長廣」↓2柿本人麻呂(26)参照

《奥書・刊記等ナシ》

(27) 宮内庁書陵部 (五一一二)

【マイクロ】二〇一二五―二一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙家集四」(表紙左)「家持集 猿丸集／赤人集／業平集／遍昭集／素性集／友則集」(表紙中央)／内題「在原業平朝臣集」／「歌仙集」のうち／家持集・赤人集・遍昭集・素性集・友則集・猿丸集と合

(28) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二一九四―一七／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ  
／内題「在原業平朝臣集」／三十六人集のうち／家持集・赤人集・遍昭  
集・素性集・友則集・猿丸大夫集と合

(29) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十一卷 平安私家集 八」所収(二〇〇  
一年二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「業平朝臣集」／内題ナシ

10 光孝天皇「書目10・大成1-18」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 宮内庁書陵部(五〇一―八四五)

【マイクロ】二〇―二〇六―五―二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「代々  
御集」／内題「仁和御集 光孝天皇」／奈良御門御集・亭子院御集・延

喜御集・朱雀院御集・村上御集・冷泉院御集・円融院御集と合

【翻刻】

A (仁和御集卷末)

仁和 光孝天皇 五十八代

仁明天皇第三の王子母皇太后宮藤

澤子 紀伊守從五位下贈太政大臣<sup>本</sup>総繼也

天長七年 誕生

元慶八年 二月二日卷受禪同月廿三日

甲寅婦巳日即位 御年五十五

仁和三年八月廿六日 崩御 年五十八

同九月二日壬申葬 小松山陵

号 小松帝 在位三年

〈奥書・刊記等ナシ〉

(2) 宮内庁書陵部(五〇六―七五)

【マイクロ】二〇―二二―一―三―二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「奈

良御集 〔仁和御集〕 / 内題「仁和御集」 / 奈良御門集・寛平御集と合

(3) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十二卷 平安私家集 九」所収(二〇〇二年四月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題ナシ / 内題「仁和御集」 / 奈良御集・寛平御集と合

11 遍昭(良岑宗貞)「書目11・大成1-19-20」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 岡山大学附属図書館池田家文庫(P九一一/一九七)

【マイクロ】一二一一五 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「僧正遍昭家集」 / 内題「遍昭家集」

【翻刻】

A (遍昭集卷末)

僧正遍昭傳

遍昭俗名良岑宗貞桓武天皇御孫正三位大納

言良岑安世之子也 大和物語勸物曰承和

十一年正月藏人 比九 十二年正月七日從五位下同十一

日任右兵衛佐 比四 十三年備前介同日右少将嘉

祥二年正月藏人頭 比四 三年正月七日從五位上

哥仙傳曰嘉祥三年三月廿一日帝崩庚子定御葬

諸司之 〔秘考〕 為裝束司丙午出家為僧先皇寵臣

也 元亨釈書曰登叡山薙髮於慈惠之室

哥仙傳又曰元慶三年任權僧正 比六十三 仁和元年十月

廿三日転任僧正十二月十八日於仁壽殿給七十賀

太政大臣左右大臣預其座 雜類略説曰僧正遍

昭仁和二年三月十四日給食邑百戸聽駕輦出入

宮中 拾遺抄云花山は山階にあり元慶寺と云

遍昭僧正も住彼寺仍号花山僧正なり 系圖

曰遍昭僧正元慶寺座・号觀中院・又曰觀中僧正故

主後六百花山寺之觀中院云々 扶桑略記曰寛平二年二月廿日丁

未奏云花山僧正昨夜入滅廿一日戊申詔遣少納

言從五位下令扶元慶寺吊故僧正遍昭遺室

帝王編年記・年月日同年七十六人成之

年廿六云々今所遺七十六人編年記・年月日同年七十六人成之

僧正遍昭傳抄出諸記不注之今山城国山

科北花山村小堂残号元慶寺遍昭之像

等見在昔寺跡者北山際所々残礎石遍

昭墓在元慶寺南二町許

安永三年甲中夏 土肥經平書之

【備考】

A 「土肥經平」…宝永四年1707〜天明二年1782。岡山藩出身の有職故実家。

(2)宮内庁書陵部(五一〇一―二)

【マイクロ】二〇―四八―一―二二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「遍昭

集 廿二」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

此二枚者宇喜多宰相依

所望進之也

文禄三年七月八日羽林郎藤判

【備考】影印本「三十六人集 御所本 遍昭集」(一九七〇年八月、新典

社)あり。

A 「宇喜多宰相」…宇喜多秀家。天正元年1573〜明暦元年1655。天正十五年

1587任参議、天正十九年1591辞退、文禄三年1594五月任權中納言、七月辞退。

「羽林郎藤」…冷泉為満↓2柿本人麻呂(9)参照

(3)長野市旧真田家本(二〇)

【マイクロ】二八―二―二二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題ナシ／

内題「遍昭集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

(4)神宮文庫(三／二二〇四)

【マイクロ】三四―一三四―一―一五／紙焼写真C四六四九／写一冊／外

題「僧正遍昭」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (卷末)

此集日野前垂相輝光卿筆跡也

慶長十二年卯月十五日 也足叟

B (卷末)

一校合

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「日野前巫相輝資卿」 ↓ 2 柿本人麻呂(9) 参照

「也足叟」 ↓ 3 山辺赤人(4) 参照

C 「村井古巖敬義」 ↓ 2 柿本人麻呂(6) 参照

(5) 神宮文庫 (三ノ一四二二)

【マイクロ】 三四―五三―三 / 紙焼写真C 四八二〇 / 写一冊 / 外題「遍昭集」 / 内題「遍昭集」

【翻刻】

A (巻末・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「村井古巖敬義」 ↓ 2 柿本人麻呂(6) 参照

(6) 名古屋市蓬左文庫 (一〇六一三七)

【マイクロ】 四八―一一―一 / 二〇 / 紙焼写真ナシ / 写一帖 / 外題「遍昭集」 / 内題ナシ / 三十六人集のうち

【翻刻】 三十六人集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(8) A 参照

(7) 陽明文庫 (近一サー六八)

【マイクロ】 五五―七〇九―一―七 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題

「家持式次第遍昭集」 / 内題「遍昭集」(首題)・「遍昭」(扉題) / 三十六人集のうち

のうち

【翻刻】

A (遍昭集末尾)

一校畢

(8) 陽明文庫 (近一ニ二二二)

【マイクロ】 五五―七二五―二―八 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「僧正

遍昭集」 / 内題「卅六人家集」(筆者目録) / 「卅六人家集」のうち

【翻刻】 卅六人家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(9) A 参照

A (筆者目録)

遍昭 阿野大納言言

【備考】

A 「阿野大納言實頭」 ↓ 2 柿本人麻呂(9) 参照

(9) 京都女子大学図書館吉沢文庫 (YW 九二一・二〇八一―一〇)

【マイクロ】 二四二―五九―一―六 / 紙焼写真ナシ / 刊一冊 / 外題「哥仙

家集」(大十) / 内題「遍昭集」 / 「哥仙家集」のうち / 赤人集・順

集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(14)F、Sも参照

A (遍昭集巻頭書入)

古本三十四首／刊本三十六首／寫本同但一首／寫脱セリ次第／三本  
／此数首之■／連哥一首／アリ

B (十冊目順集巻末書入)

文化五年壬六月朔日夜一校畢 (花押)

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也續梓

D (十五冊目中務集巻末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢 (花押)

【備考】

B D 「(花押)」：村田春門↓2柿本人麻呂(14)参照

(10) 大和文華館 (三一三九二五)

【マイクロ】二五七―一五二―一八／紙焼写真ナシ／写一冊／外題

「哥仙集」／内題「遍昭集」／「歌仙集」のうち／敏行集・索性集・興

風集・公忠集・清正集・友則集・小町集・是則集・信明集・猿丸集・業

平集・頼基集・宗于集・敦忠集・兼盛集・仲文集・忠岑集と合

【翻刻】歌仙集全体↓6猿丸大夫(9)A参照

(11) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (B七二／一五一〇)

【マイクロ】三三二―一六八―一三二／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題ナシ

／内題「遍昭集」／歌仙歌集のうち／赤人集・順集と合

【翻刻】

A (人丸集巻頭)

遍昭 十八枚 内白三枚 ○

B (遍昭集巻頭書入)

古本三十四首／刊本三十六首／寫本同但一首／寫脱セリ次第／三本同

／此数首之中／連哥一首有

C (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也續梓

(12) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三二―二九五―二一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「遍

昭集」／内題「遍昭集」／三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (巻末)

一校了

(13) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三一―四―一三二／紙焼写真C六〇七三／写一冊／外題

「哥仙家集 四」／内題「遍昭集」／「哥仙家集」のうち／赤人集・源

順集・元輔集・朝忠集・高光集・友則集・小町集・忠岑集・頼基集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(19)F↓Hも参照

A (遍昭集見返し)

古本三十四首刊本三十六首宜本同但一首宜脱次第三本同

此数首之中連哥十首有

B (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の

本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長〔花押〕

【備考】

B 「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長〔花押〕」↓2柿本人麻呂(19)参照

(14) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第十四卷 平安私家集 一」所収(一九九三年二月、朝日新聞社)所収影印/写一帖/外題「花山僧正集」/内題ナ

シ

【翻刻】

A (巻末)

此二枚者宇喜多宰相依

所望進之也

文祿三<sub>平</sub>七月八日羽林郎藤(花押)

【備考】

A 「宇喜多宰相」「羽林郎藤」↓11遍昭(2)参照

(15) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十卷 平安私家集 七」所収(一九九九年二月、朝日新聞社) / 写一帖 / 外題「遍照」 / 内題「遍照集 / へんせうそう正のしふ」

【翻刻】

A (巻末)

ゆ、しの

めところ

これほと の

のこりける なさや

に

さしも

つ、めて

かきたる

よ

B (貼紙)

遍照 墨付十四枚

(16) 国文学研究資料館(ア二一三一〇)

【原本】刊一冊 / 外題「哥仙家集赤人」十(合点は朱) / 内題「遍昭集」 / 「哥仙家集」のうち / 赤人集・順集と合

【翻刻】

A (遍昭集卷頭朱書入)

古本三十四首刊本三十六首家本同 此首數之中連哥一首アリ 次第三

本同

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記後書入)

以大坂江田氏古本并家本一校了

平入道法橋

明和第七月四日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加辭案畢

甲斐權守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九年三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

【備考】

C 「平入道法橋兼誼」→「菟道上林政義」→2柿本人麻呂(24)参照

「甲斐權守賀茂季鷹」→2柿本人麻呂(19)参照

(17) 国文学研究資料館 (ア二一四一〇)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集赤人 道照」／内題「遍昭集」／「哥仙家集」のうち／赤人集・順集と合

【翻刻】

A (遍昭集末尾朱書入)

以一古本校合了

八月七日 是香

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

【備考】

A 「是香」…六人部是香。寛政十年1798→文久三年1863。国学者。

(18) 国文学研究資料館 (ア二一五一〇)

【原本】刊一冊／外題「赤人 道照」(朱書)／内題「遍昭集」／「歌仙家集」のうち／赤人集・順集と合

【翻刻】

A (遍昭集卷頭書入)

古本三十四首 刊本三十六首 宜本同但一首寫脱セリ

此首數之中連哥一首アリ 次第三本同

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

C (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

C 「大橋長廣」↓2 柿本人麻呂(26)参照

〈奥書・刊記等ナシ〉

(19)内閣文庫 (二〇一—四三三)

【マイクロ】一九一—四四一—三／紙焼写真C五二一〇／写一冊／外題

「遍昭集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「遍昭集」／三  
十六人集のうち

(20)宮内庁書陵部 (五一一—二)

【マイクロ】二〇—二五—二八／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「歌仙集

四」(表紙左)、「家持集 猿丸集／赤人集／業平集／遍昭集／素性集／  
友則集」(表紙中央)／内題「僧正遍昭集」／「哥仙集」のうち

(21)宮内庁書陵部 (五〇六—八)

【マイクロ】二〇—四五—一一—二二／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「僧正

遍昭集廿二」／内題ナシ／三十六人集のうち

(22)国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二二—三〇—一一—三二／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥  
仙家集 赤人 遍昭 順」／内題「遍昭集」／「歌仙家集」

(23)国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二二—九四—一一—八／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ  
／内題「僧正遍昭集」／三十六人集のうち／家持集・赤人集・業平集・  
素性集・友則集・猿丸大夫集と合

(24)神宮徴古館 (三九九—三)

【マイクロ】六二—二二—一一—六／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題  
「僧正遍昭集」／内題ナシ／三十六人集のうち

(25)東奥義塾高等学校

【マイクロ】六七—一一—一一—八／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題「遍  
昭集 八」／内題「遍昭集」／三十六人集のうち

(26)熊本大学附属図書館北岡文庫 (三三三—号赤二—二)

【マイクロ】二二—四—一一—五—一一—五／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「歌  
仙家集」／内題「遍昭集」／「歌仙家集」のうち／源順集と合

12 藤原敏行「書目12・大成22」

〈奥書・刊記等アリ〉

(1) 内閣文庫 (二〇一―四三三)

【マイクロ】一九―一四三―五―二―紙焼写真C五二一〇／写一冊／外題「敏行集」(マイクロ不鮮明、調査カードによる)／内題「敏行集」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

春 白露の色はひとつをいかにして秋のこのはをち、にそむらん

同 くへきほど、きすきぬれや待侘て鳴なる声の人をと、むる

同 住の江の岸による浪よるさへや夢のかよひち人めよくらむ

右三首無瀉本私書加之

寛平の御時桜花の宴ありけるに雨のふり侍

ければ

後 春雨の花の枝よりなかれこは猶こそぬれめ香もやうつると

(2) 宮内庁書陵部 (五二―一―二)

【マイクロ】二〇―二五―二―二―紙焼写真ナシ／写一冊／外題「哥仙集 六」(表紙左)・「齋宮女御集／頼基集／敏行集／重之集／宗于集」(中央)／内題「藤原敏行朝臣集」／「歌仙集」のうち／齋宮女御集・

頼基集・重之集・宗于集と合

【翻刻】

A (宗于集巻末)

一校了

(3) 宮内庁書陵部 (五二〇―二)

【マイクロ】二〇―四八―一―一六―紙焼写真ナシ／写一帖／外題「敏行集 十六」／内題「敏行朝臣集」／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

藤原敏行

陸奥出羽按察使富士磨一男

母刑部卿紀名席女

貞観八年正月任少内記

同十二年任大内記

同十三年正月補藏人

同十五年正月七日従五位下

七月十三日 叙従四位上

九月 任 衛督

延喜七年卒

家傳云昌泰四年<sup>云々</sup>

B (同)

承空上人

寄進之

【備考】影印本「三十六人集 御所本 敏行集」(一九七〇年四月、新典社)あり。

B 「承空上人」↓4大伴家持(16)参照

(4)長野市旧真田家本(二〇)

【マイクロ】二八―二二―二一六／紙焼写真C九七二／写二冊／外題ナシ／内題「敏行集」／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(5)A参照

(5)神宮文庫(三／二二〇四)

【マイクロ】三四―一三三―一〇一七／紙焼写真C四六四九／写二冊／外題「藤原敏行朝臣」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】

A (巻末)

此集廣橋亜相（註）所筆也去十四

日送之今日未到到来

慶長十二年卯月十二日 也足叟

B (同)

一校合終

C (同・奉納印)

天明四年甲辰八月吉旦奉納

皇太神宮林崎文庫以期不朽

京都勤思堂村井古巖敬義拜

【備考】

A 「廣橋亜相兼勝卿」↓2柿本人麻呂(9)参照、慶長二年1597〜元和四年1618まで権大納言。

「也足叟」↓3山辺赤人(4)参照

C 「村井古巖敬義」↓2柿本人麻呂(6)参照

(6)名古屋市蓬左文庫(二〇六一三七)

【マイクロ】四八―一―一六／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「敏行集」／内題ナシ／三十六人集のうち

【翻刻】三十六人集全体↓2柿本人麻呂(8)A参照

(7)陽明文庫(近―二二二一)

【マイクロ】五五―七―一五―二―二一／紙焼写真ナシ／写二冊／外題「敏行朝臣集」／内題「卅六人家集」〔筆者目録〕／「卅六人家集」のうち

【翻刻】卅六人家集全体↓柿本人麻呂(9)A参照

A (筆者目録)

敏行 中御門大納言（註）

【備考】

A 「中御門大納言資胤」↓2柿本人麻呂(9)参照

(8) 山口県立山口図書館(一一二)

【マイクロ】六〇―四四―八／紙焼写真C三六五四／写一冊／外題「敏行朝臣集」／内題「敏行朝臣集」

【翻刻】

A (巻末)

校合畢

(9) 京都女子大学図書館吉沢文庫(YW九一・二〇八―K―四)

【マイクロ】二四二―五八―三―一―／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥仙家集」

仙家集書影 四

集・宗子集・清正集と合

【翻刻】歌仙家集全体↓2柿本人麻呂(14)F↖Sも参照

A (敏行集巻頭)

但刊宜并業平家女ノ和哥ヲ加テ廿首トス古本ニハ不載之故ニ古本ハ

五首多シ又次第モ刊宜本ハ全同

B (同・頭注)

古本廿四首刊宜ノ本并廿首ノ古本イクハクノ明ノヌトテノ二首前ノ后

相違其餘ノ全同

C (同)

此集先年古本ヲ以テ一校畢

今富士谷本ト校合スルニ大

略同シ異ナルハ下二三ノ字

ノ印ヲ加フ

D (敏行集末尾)

大空に雲のかりがねきにけらしおのかとしかはなつのやどりに

○ ○

寛平の御時さくらの花さかり雨のふりければ

春雨の花の枝より流るればぬれこそぬれめ何かかくれん

是貞のみこの家の哥合に

白露の色は一をいかにして秋の山べをち、にそむらん

うくひす

心から

是貞のみこの家の哥合に

鈴虫の聲みたれたる秋の、はふりすぎがたき物にぞ有ける

以上五首先年ノ古本也

E (同・頭注)

○秋立ていくかも／あらぬにこのね／ぬる朝けの風は／袂涼しも

○いつこにも草の／枕をす、むしは／こ、を旅とは／思はさらなん

伊勢歎

F (四冊目清正集巻末書入)

文化四年七月六日一校畢

村田並(花押)

G (中務集巻末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙粹

H (十五冊目中務集卷末書入)

文化五年七月廿五日全編校合畢〔花押〕

【備考】

F〔村田並〔花押〕〕H〔〔花押〕〕：村田春門↓2柿本人麻呂(14)参照

(10)大和文華館(三―三九二五)

【マイクロ】二五七―一五二―一―一五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題

「哥仙集」／内題「敏行集」／「哥仙集」のうち／索性集・興風集・遍

昭集・公忠集・清正集・友則集・小町集・是則集・信明集・猿丸集・業

平集・頼基集・宗于集・敦忠集・兼盛集・仲文集・忠岑集と合

【翻刻】↓6猿丸大夫(8)A参照

(11)ノートルダム清心女子大学附属図書館(B七―一五―四)

【マイクロ】三三三二―六八―一―一―一／紙焼写真ナシ／刊一冊／外題「哥

仙家集字體四」／内題「敏行集」／「哥仙家集」のうち／齋宮集・

宗于集・清正集と合

【翻刻】

A (敏行集巻頭)

但刊宜并二業平家女ノ和哥ヲ加テ廿首トス古本ニハ不載之故ニ古本ハ

／五首多シ又次第モ刊宜本ハ全同

B (同・頭注)

古本廿四首刊寫／本并廿首／古本イクハクノ明ヌ／トテノ二首前後／

相違其餘全同

C (同)

此集先年古本ヲ以／テ一校畢今富士／谷本ト校合スルニ／大異同シ異

ナルハ／下二三ノ字ノ印ヲ加フ

D (敏行集末尾)

大空に雲のかりかねきにけらしおのかとしかはなつのやとり

○

○

寛平御時さくらの花さかり雨のふりければ

はるさめの花の枝よりなかるはぬれこそぬれめ何かかくれん

是貞のみこの家の哥合に

しら露の色は一をいかにして秋の山へをち、にそむらん

うくひす

心から

是貞のみこの家の哥合に

す、むしのこゑみたれたる秋の、はふりすきかたき物にそ有ける

以上五首先年ノ古本也

E (同・頭注)

○秋立ていくかも／あらぬにこのねぬる／朝けの風は／袂涼しも

○いつこにも草の枕／をす、むしは／こ、を旅とは／思はさらなん

伊勢歌

F (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

(12) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (C一/三四一六)

【マイクロ】三三三二七二一— / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題「敏行集 十六」 / 内題「敏行家集」〔扉題〕・「本願寺本三十六家集」〔目録題〕

／「本願寺本三十六人家集」のうち / 是則集と合

【翻刻】本願寺本三十六家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(17) A B 参照

A (人丸集巻頭)

敏行 十枚 内白一枚 ○

(13) ノートルダム清心女子大学附属図書館 (H二〇七)

【マイクロ】三三三二—二九五—二一八 / 紙焼写真ナシ / 写一冊 / 外題

「敏行集」 / 内題「敏行集」 / 三十六歌仙家集のうち

【翻刻】

A (巻末)

一校了

(14) 中田光子氏

【マイクロ】ナ三—四—一—一 / 紙焼写真C六〇七三 / 写一冊 / 外題

「哥仙家集 二」 / 内題「敏行集」 / 「哥仙家集」のうち / 斎宮女御集・

宗子集・清正集・興風集・是則集・小大君集・能宣集・兼盛集と合

【翻刻】歌仙家集全体 ↓ 2 柿本人麻呂(19) F ↓ Hも参照

A (敏行家巻頭)

古本廿四首刊宜本并廿首古本イクハクノ明ヌトテノ二首前後相違其餘  
全同 / 但刊宜并ニ業平家女ノ和哥ヲ加テ廿首トス古本ニハ不載之故ニ

古本ハ五首多シ又次第モ / 刊寫本ハ全同

此集先年古本ヲ以テ一校畢今富士谷本ト校合スルニ大略同

異ナルハ下二三ノ字ノ印ヲ加フ

B (敏行家巻尾)

○ 大空に雲のかりがねきにけらしおのかとしかはなつのやどりに

○

○

寛平の御時さくらの花ざかり雨のふりければ

○ 春雨の花の枝より流るればぬれこそぬれめ何かかくれん

是貞のみこの家の哥合に

○ 白露の色は一をいかにして秋の山べをち々にそむらん

うぐひす

心から

是貞のみこの家の哥合に

○ 鈴むしのこゑみだれたる秋の、はふりすぎがたき物にぞ有ける

以上五首先年ノ古本也

C (敏行集末尾書入)

○秋立ていくかも／あらぬにこのねぬる／朝けの風は袂すゞ／しも  
○いづこにも草の枕／をすゞむしはこゝ／を旅とも思は／ざらなん

伊勢殿

D (五冊目、中務集末)

こは加茂季鷹校合せるところの藤原濱臣所蔵の  
本にて今年文化元甲子五月五日校合畢 長〈花押〉

【備考】

D 「加茂季鷹」「藤原濱臣」「長〈花押〉」↓2柿本人麻呂(19)参照

(15) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第七十一卷 承空本私家集 下」所収(二〇

〇七年六月、朝日新聞社)／写二冊／外題「敏行朝臣集」／内題「敏行

朝臣集」

【翻刻】

A (卷末)

藤原敏行

陸奥出羽按察使富士磨一男

母刑部卿紀名席女

貞観八年正月任少内記

同十二年任大内記

同十三年正月補藏人

同十五年正月七日従五位下

七月十三日叙従四位上

九月 任 衛督

延喜七年卒

家伝に昌泰四年<sup>云々</sup>

B (同)

承空上人

寄進之

【備考】

B 「承空上人」↓4大伴家持(16)参照

(16) 国文学研究資料館(ア二一三一四)

【原本】刊一冊／外題「哥仙家集<sup>漢書</sup> 卷四」(合点は朱)／内題「敏行

集」／「哥仙家集」のうち／斎宮集・宗于集・清正集と合

【翻刻】

A (敏行集巻頭書入)

古本廿四首但刊家本<sup>片二</sup>業平家女ノ歌ヲ加テ廿首トス古本ニハ不載之故

ニ古本ハ五首多／

B (同)

刊家本并／廿首又次第モ／刊家本ハ全同

C (同)

古本イクハクノ／明ヌトテノ二首／所後違餘全／同／以古本補哥／五

首後附

D (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

E (刊記後書入)

以大坂江田氏古本<sup>#</sup>家本一校了

平入道法橋

明和第七四月六日

兼誼〔花押〕

以猪苗代氏校本一校了只加僻案畢

甲斐権守賀茂

寛政十一年五月十二日

季鷹〔花押〕

右家集旧臘十五日從季鷹借受而書寫了

文政九<sup>改</sup>三月八日 菟道上林

政義〔花押〕

〔備考〕

E [平入道法橋兼誼]「菟道上林政義」↓2柿本人麻呂(24)参照

「甲斐権守賀茂季鷹」↓2柿本人麻呂(19)参照

(17)国文学研究資料館(ア二一四一四)

〔原本〕刊一冊／外題「歌仙家集<sup>宗子集</sup>」／内題「敏行集」／「歌仙家集」のうち／斎宮集・宗子集・清正集と合

〔翻刻〕

A (敏行集末尾朱書入)

大空に雲のかり金来にけらしをのかとむよはなくのやとり  
秋立ていくかもあらぬにこのねぬる朝けの風は袂す、しも

以一古本校合了

いつこにも草の枕を鈴むしはこ、をたひとは思はさらなん

寛平の御時桜の宴ありける日雨のふり侍けれは

春雨の花の枝よりなかれこはぬれこそぬれめなにかかくれん

これさたのみこの家の哥合によめる

白露の色はひとつをいかにして秋の山へをち、に染覽

うくひす

心なく花のしづくにそほちつ、うくひすとのみ鳥の鳴らん

B (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繙梓

(18)国文学研究資料館(ア二一五一四)

〔原本〕刊一冊／外題「<sup>宗子集</sup>」(朱書)／内題「敏行集」／「歌仙家集」のうち／斎宮集・宗子集・清正集と合

〔翻刻〕

A (敏行集巻頭書入)

古本廿四首／刊宜本并廿首

B (同)

古本イクハクノ／明ストテノ二首／前後相違／其餘全同／以古本補哥  
／五首後附

C (同)

但刊宜本并業平家女ノ和哥ヲ加テ廿首トス古本ニハ不載之  
故ニ古本ハ五首多シ又次第モ刊宜本ハ全同

D (同・朱書入)

古本五首多一首少但業平朝臣家女歌

E (敏行集末尾書入)

補五首

大空に雲のかり金きにけらしおのかとこよはならのやとり  
秋たちていくかもあらぬ此ねぬる朝風の風は袂す、しも

いつこにか、草の枕をす、むしはこ、をたひとは思はさらなん

寛平御時桜の宴ありける日雨のふり

待ければ

春雨の花のえたよりなかれこはぬれこそぬれめ何かかくれん

これさたのみこの家の哥合によめる

白露のいろはひとつをいかにして秋の山へをち、にそむらん

F (同)

此三首題ナクテ／アフ坂ノ哥ノ下ニ／カキツ、ケタリ／不審

G (中務集卷末刊記)

正保四年丁亥曆八月

書林中野道也繡梓

H (刊記後、朱書入)

文政五年午初秋七日校合畢 大橋長廣

【備考】

H 「大橋長廣」 ↓ 柿本人麻呂(26) 参照

〈奥書・刊記等ナシ〉

(19) 宮内庁書陵部 (五〇一—二二三)

【マイクロ】二〇—四—二二／紙焼写真ナシ／写一帖／外題ナシ／内題ナシ

(20) 宮内庁書陵部 (五〇六—八)

【マイクロ】二〇—四五—一—一五／紙焼写真ナシ／写一冊／外題「敏行朝臣集十六」／内題ナシ／三十六人集のうち

(21) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二—三〇—一—一／紙焼写真C二八七／写一帖／外題「哥仙家集齋宮 敏行宗子 清正」／内題「敏行集」／「哥仙家集」のうち／齋宮女御集・宗子集・清正集と合

(22) 国立歴史民俗博物館高松宮家本

【マイクロ】二—一九四—一—二二／紙焼写真C六六二／写一冊／外題ナシ／内題「藤原敏行朝臣集」／「三十六人集」のうち

(23) 賀茂別雷神社三手文庫今井似閑本(歌一申一三三)

【マイクロ】三九一九二一六／紙焼写真C一九九三／写一帖／外題「敏行朝臣集」／内題「敏行朝臣集」

(24) 陽明文庫(別置)

【マイクロ】五五―五四五―二一七／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「としゆき」／内題ナシ／「本願寺本三十六人集」(箱書)のうち

(25) 陽明文庫(近一サー六八)

【マイクロ】五五―七〇八―二一七／紙焼写真ナシ／写一冊／外題

「教忠 高光 公忠 重之 忠岑 齋宮 敏行」／内題「敏行集」(首題)・「敏行」(扉題)／三十六人集のうち／敦忠集・高光集・公忠集・重之集・忠岑集・齋宮女御集・頼基集と合

(26) 神宮徴古館農業館(三九九三)

【マイクロ】六二―一―二五／紙焼写真C三七四八／写一帖／外題「藤原敏行朝臣集」／内題ナシ／三十六人集のうち

(27) 東興義塾高等学校

【マイクロ】六七―一―二二／紙焼写真C三〇七二／写一冊／外題「敏行集 廿二」／内題「敏行集」／三十六人集のうち

(28) 熊本大学附属図書館北岡文庫(三三三号赤二二)

【マイクロ】二二四―一―五―一―四／紙焼写真ナシ／写一帖／外題「哥仙家集」／内題「敏行集」／「哥仙家集」のうち／宗于集と合

(29) 冷泉家時雨亭文庫

【影印】「冷泉家時雨亭叢書 第二十一卷 平安私家集 八」所収(二〇〇一年二月、朝日新聞社)／写一帖／外題「敏行朝臣集」／内題ナシ